

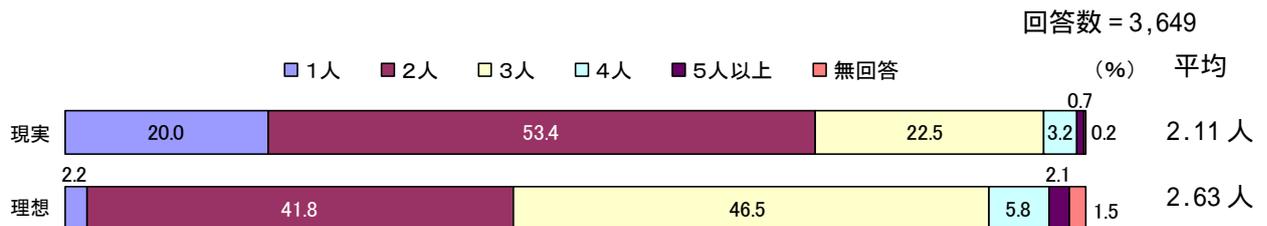
第2章 共通の質問

子どもの人数について（子どもの数 理想より少ない理由） 【問1】

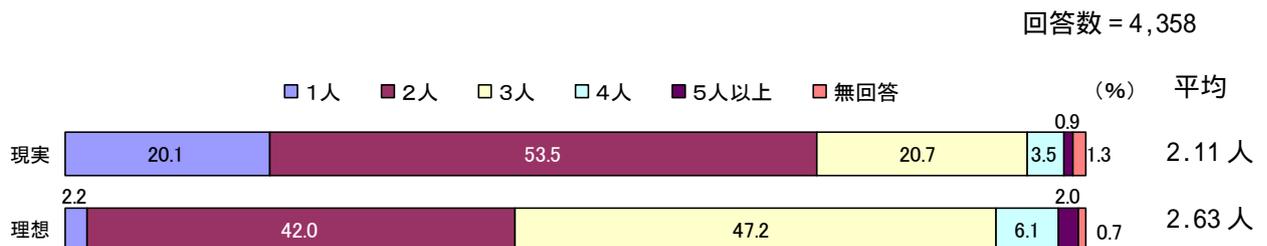
(1) あなたには何人のお子さんがいますか。また、何人いるのが望ましいとお考えですか。

理想としてほしい子どもの数の平均は2.63人に対して、実際の子どもの数の平均は2.11であり、理想より2割程度低い値となっている。

この理由として、「経済的に余裕がないから」が47.2%と最も高く、次が「子育ての身体的・精神的な負担が大きいから」の24.5%である。この他、「自分または配偶者の年齢上の理由から」(17.5%)、「仕事と子育ての両立が難しいから」(16.9%)、「住宅が狭いから」(16.7%)などが理由の上位にあがっている。

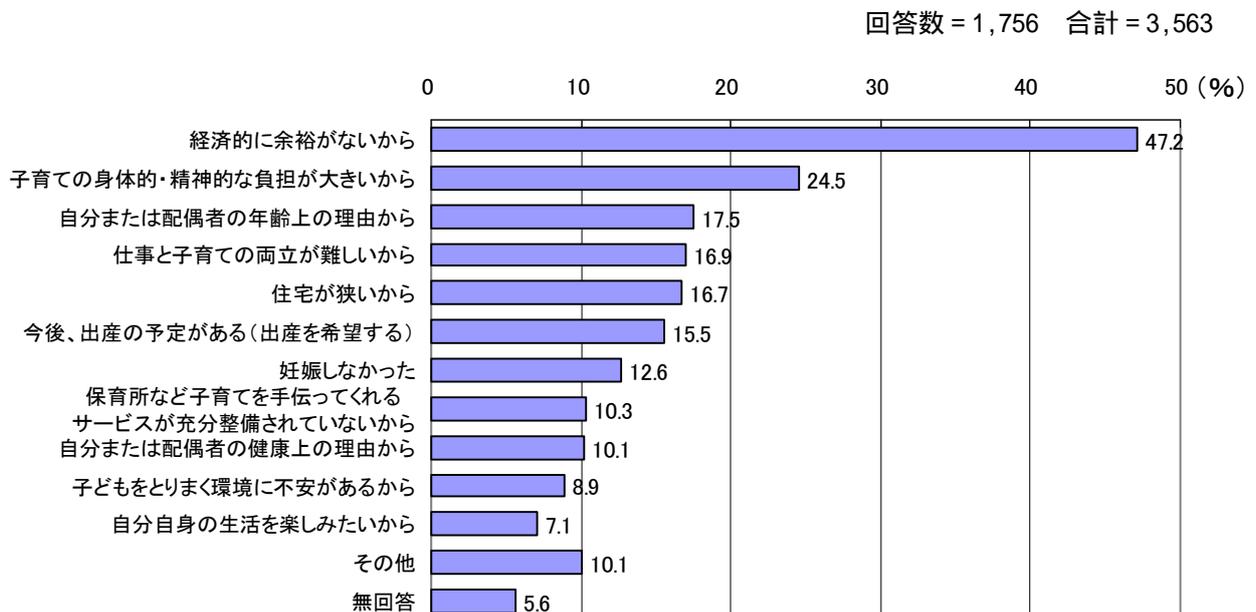


【参考】「子育てに関する意識・ニーズ調査（平成15年度）」の結果



(注) 子育てに関する意識・ニーズ調査の対象者は0歳から11歳の子どもの保護者

(2) 子どもの数が理想より少ない理由は何ですか。(3つまで)



【参考】「子育てに関する意識・ニーズ調査（平成 15 年度）」との「子どもの数が理想より少ない理由」の比較

本調査		平成 15 年度調査	
経済的に余裕がない	47.2 %	経済的に余裕がない	53.7 %
身体的・精神的負担大	24.5	身体的・精神的負担大	29.4
年齢上の理由	17.5	仕事との両立	20.3
仕事との両立	16.9	年齢上の理由	19.2
住宅が狭い	16.7	住宅が狭い	19.1
今後予定あり	15.5	今後予定あり	15.4
保育サービス等不備	10.3	保育サービス不備	13.8
健康上の理由	10.1	子どもをとりまく環境	12.1
子どもをとりまく環境	8.9	健康上の理由	10.0
自分の生活楽しむ	7.1	自分の生活楽しむ	6.5

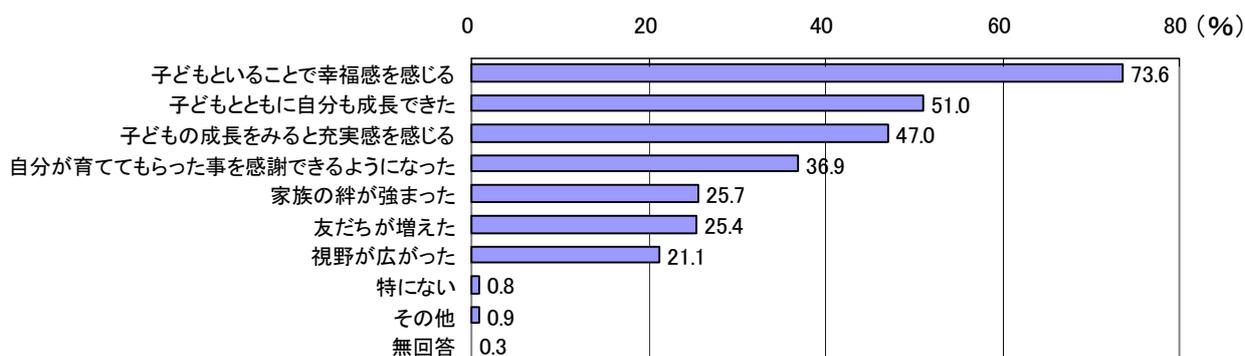
平成 15 年度に実施した同趣旨の調査（対象が 0 歳～ 11 歳までの子どもの保護者。選択肢項目は同じ）と今回の調査を理想より少ない理由の構成比の変化についてみると、減少しているものが多いが、減少幅の大きいものとして、「経済的に余裕がない」が 6.5%、「身体的・精神的負担が大きい」が（4.9%）、「保育サービス不備」が 3.5%、「仕事との両立が困難」が 3.4%、「子どもをとりまく環境」が 3.2%となっている。

子育てを通じて良かったと感じたことについて 【問2】

子育てを通じて良かったと感じたことをお答え下さい。(3つまで)

最も多い回答は「子どもといることで幸福感を感じる」(73.6%)である。次に多いのは「子どもとともに自分も成長できた」(51.0%)、「子どもの成長をみると充実感を感じる」(47.0%)、「自分が育ててもらった事を感謝できるようになった」(36.9%)などである。

回答数 = 3,649 合計 = 10,320



【参考】「子育てに関する意識・ニーズ調査(平成15年度)」との比較

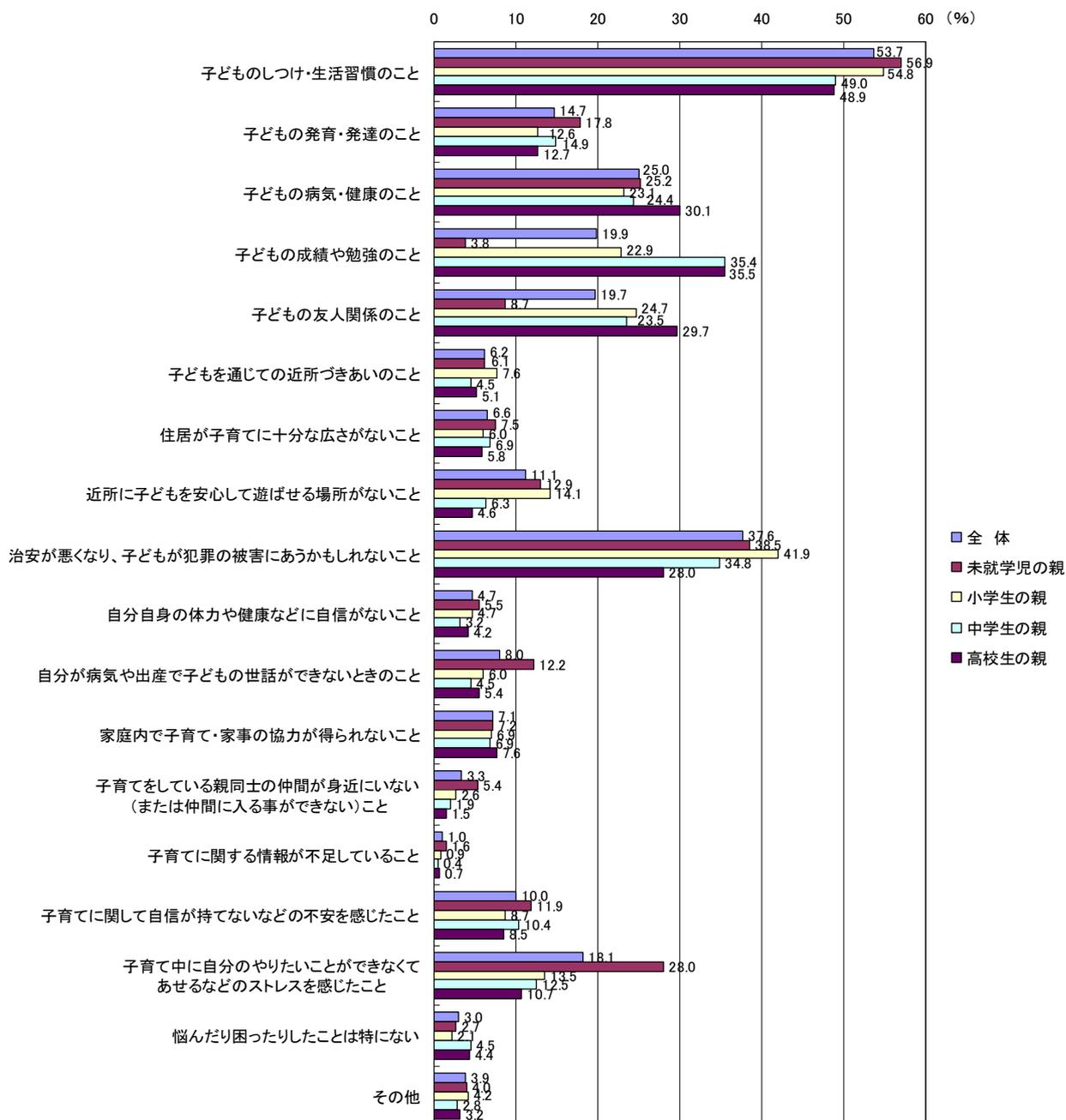
子育てを通じて良かったと感じることの中で、構成比の変化をみると、それぞれの項目間に構成比の増減がみられるが、特に、「幸福感」の構成比の変化が大きく、4.7%増加している。

本調査		15年度	
幸福感	73.6 %	幸福感	68.9 %
自分も成長	51.0	子の成長に充実感	47.6
子の成長に充実感	47.0	自分も成長	46.8
自分の親へ感謝	36.9	自分の親へ感謝	41.7
家族の絆	25.7	友達が増えた	25.0
友達が増えた	25.4	家族の絆	24.8
視野が広がった	21.1	視野が広がった	22.6

子育ての悩みや不安について 【問3】

(1) 子育てをしている間に、どんなことに悩んだり、不安に感じたり、困ったりしましたか。
(3つまで)

全体では、最も多いのが「子どものしつけ・生活習慣のこと」(53.7%)であり、次が「治安が悪くなり、子どもが犯罪の被害にあうかもしれないこと」(37.6%)、「子どもの病気・健康のこと」(25.0%)である。第4位以降では「子どもの成績や勉強のこと」(19.9%)、「子どもの友人関係のこと」(19.7%)、「子育て中に自分のやりたいことができなくてあせるなどのストレスを感じたこと」(18.1%)などがあげられる。

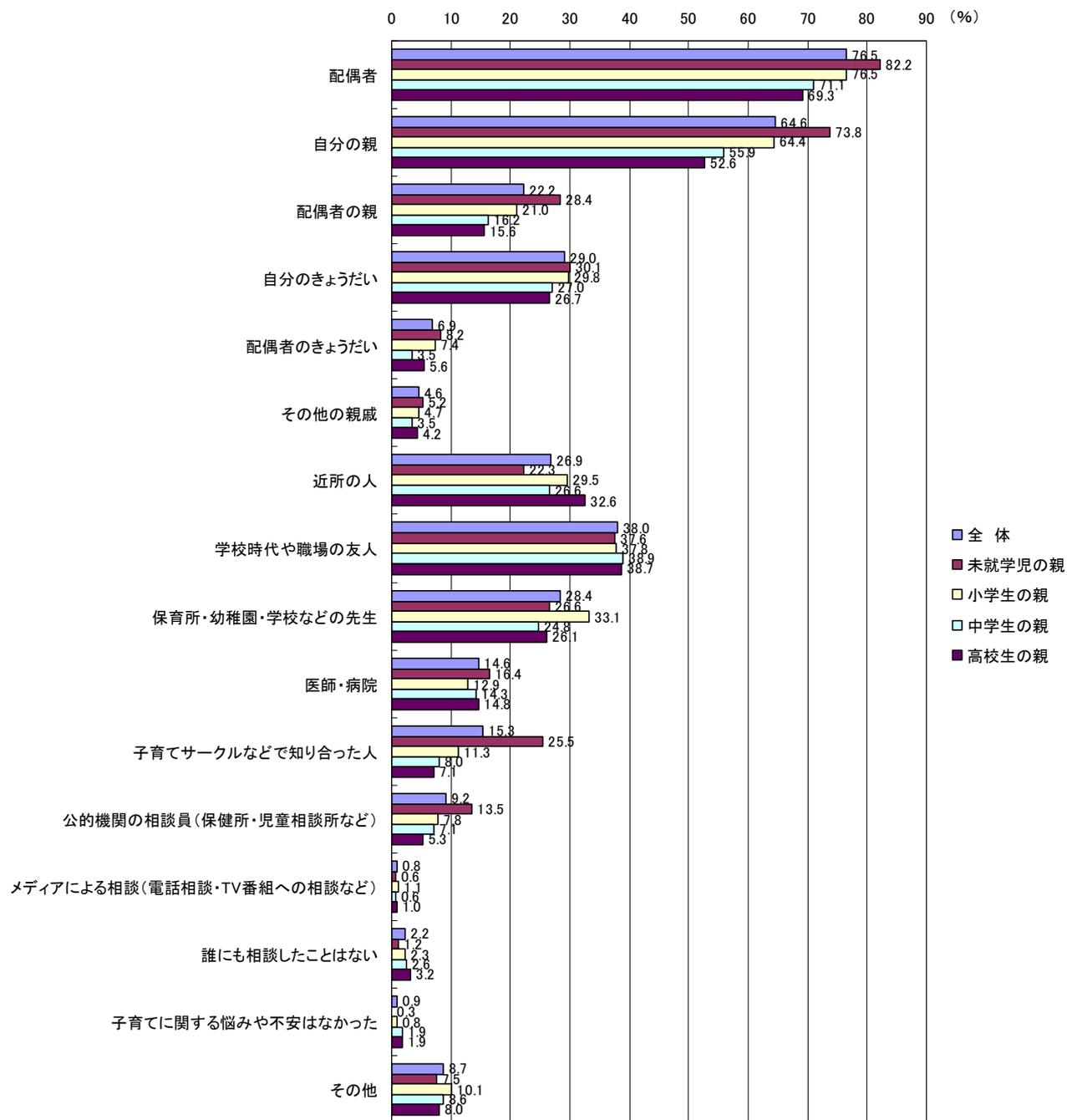


(注)「全体」の回答数には、属性を回答していない人の回答も含まれている。(以下同様)

回答数 全体 = 3,649、未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238、中学生の親 = 463、高校生の親 = 589
合計 全体 = 9,268、未就学児の親 = 3,273、小学生の親 = 3,187、中学生の親 = 1,145、高校生の親 = 1,453

(2) 子育てに関する悩みや不安などを誰に相談してきましたか。(複数回答)

全体についてみると、相談相手で最も多いのが、「配偶者」(76.5%)であり、次が「自分の親」(64.6%)である。これに続いて、「学校時代や職場の友人」(38.0%)、「自分のきょうだい」(29.0%)、「先生」(28.4%)「近所の人」(26.9%)などがあげられる。



回答数 全体 = 3,649、未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238、中学生の親 = 463、高校生の親 = 589
 合計 全体 = 12,745、未就学児の親 = 4,851、小学生の親 = 4,343、中学生の親 = 1,440、高校生の親 = 1,843

子どもを育てている間に感じたことについて 【問4】

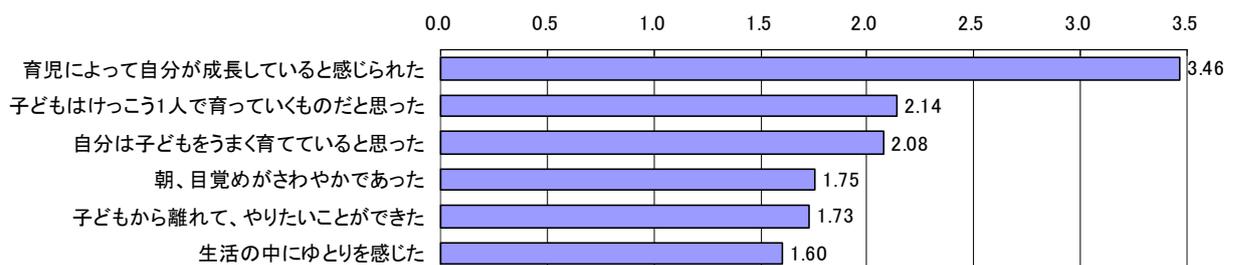
子育てをしている間に、どんなことを感じたり、思ったりしましたか。

「あてはまる」の程度を数値化した結果（注）でみると、良いこととしては、特に「育児によって自分が成長していると感じられた」（3.46）にあてはまる人が多い。

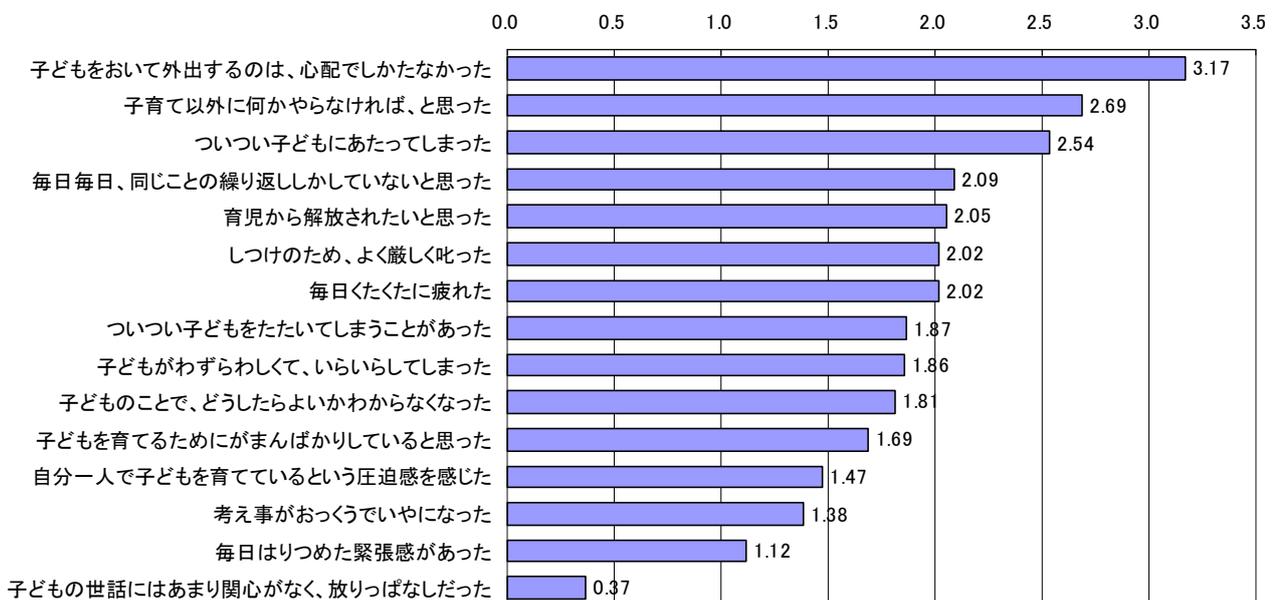
また、心配・悪いこととしては、「子どもをおいて外出するのは、心配でしかたなかった」（3.17）「子育て以外に何かやらなければ、と思った」（2.69）「ついつい子どもにあたってしまった」（2.54）などが、相対的に高い値を示している。

回答数 = 3,649

【良いこと】



【心配・悪いこと】

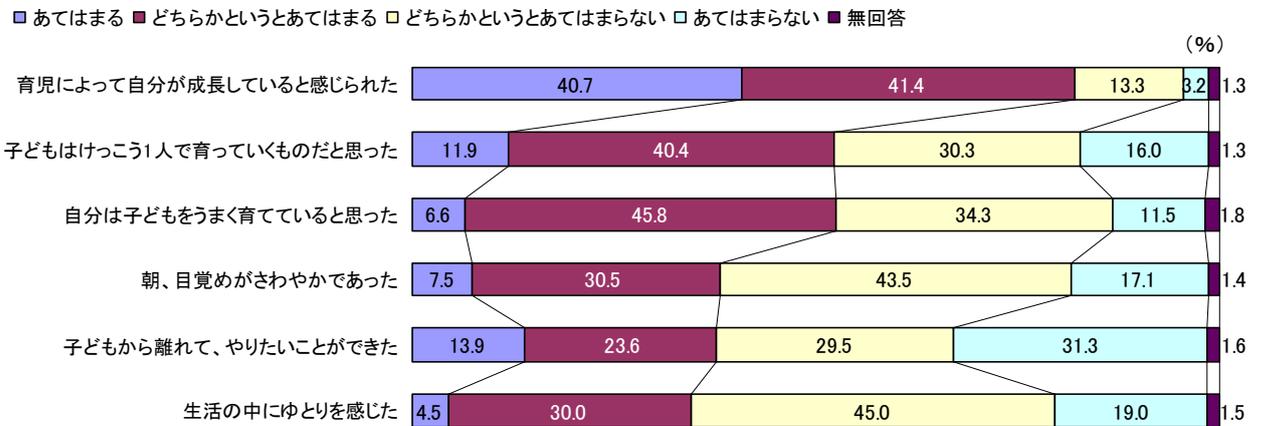


（注）「あてはまる」=5点、「どちらかというにあてはまる」=3点、「どちらかというにあてはまらない」=1点、「あてあまらない」=0点として、回答者数の重みをつけて算出した値である。

子育てしている間に感じたこと 内訳

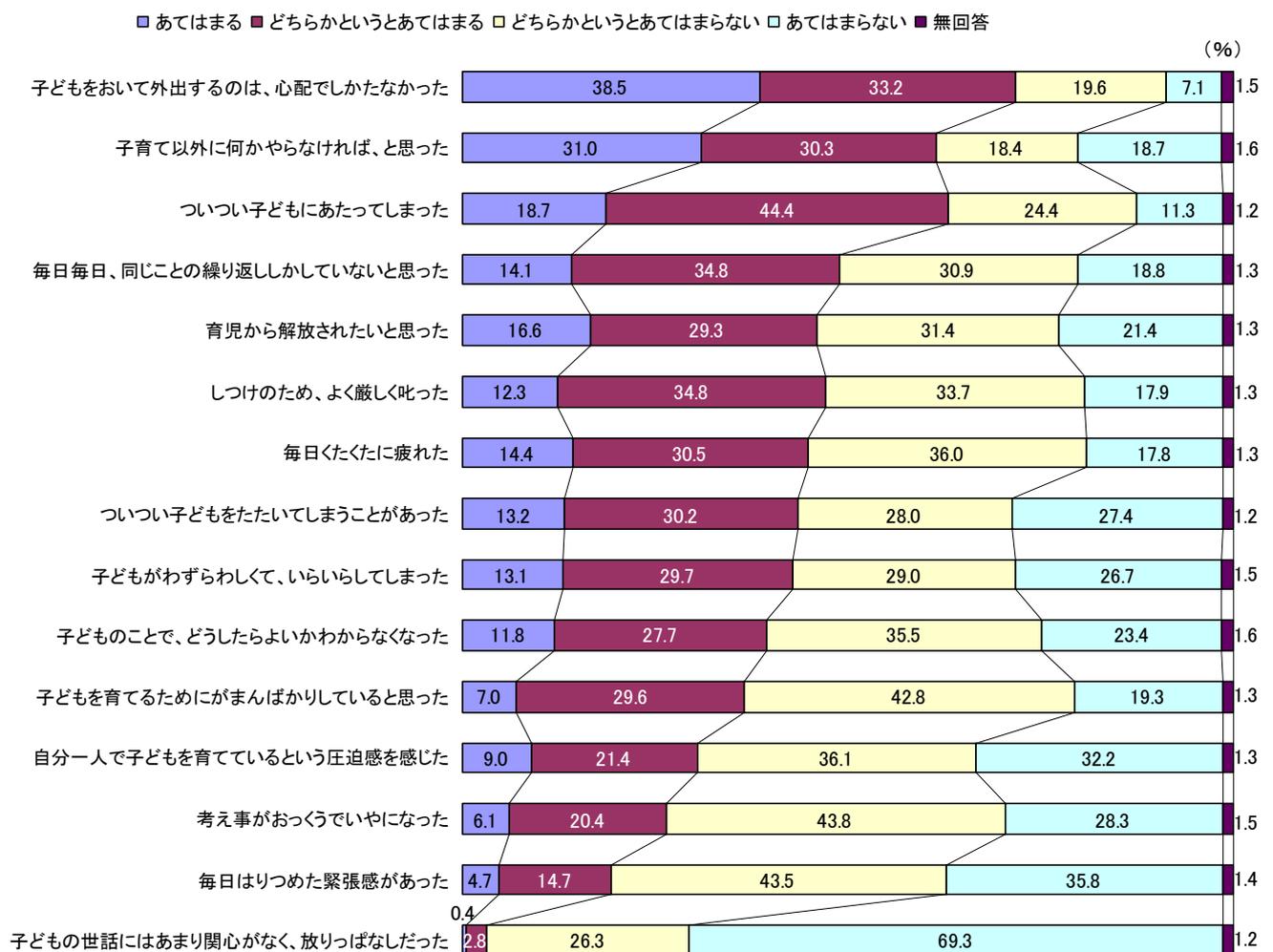
【良いこと】

回答数 = 3,649



【心配・悪いこと】

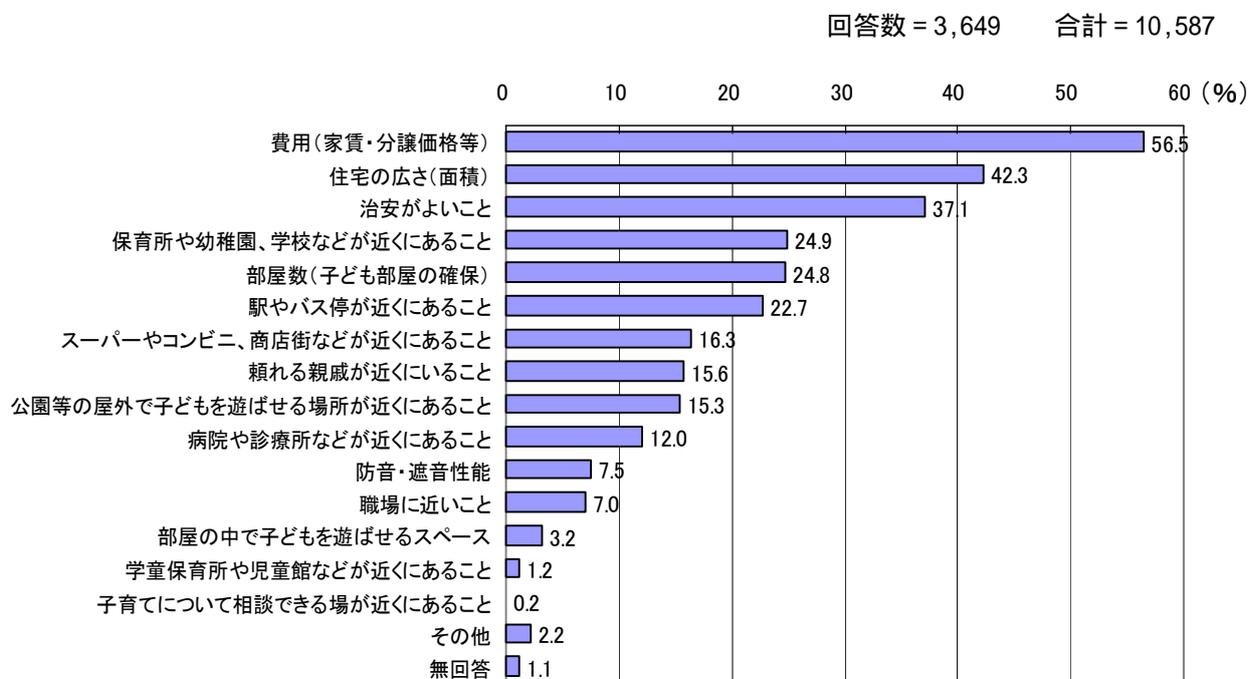
回答数 = 3,649



住宅を選ぶ条件について 【問5】

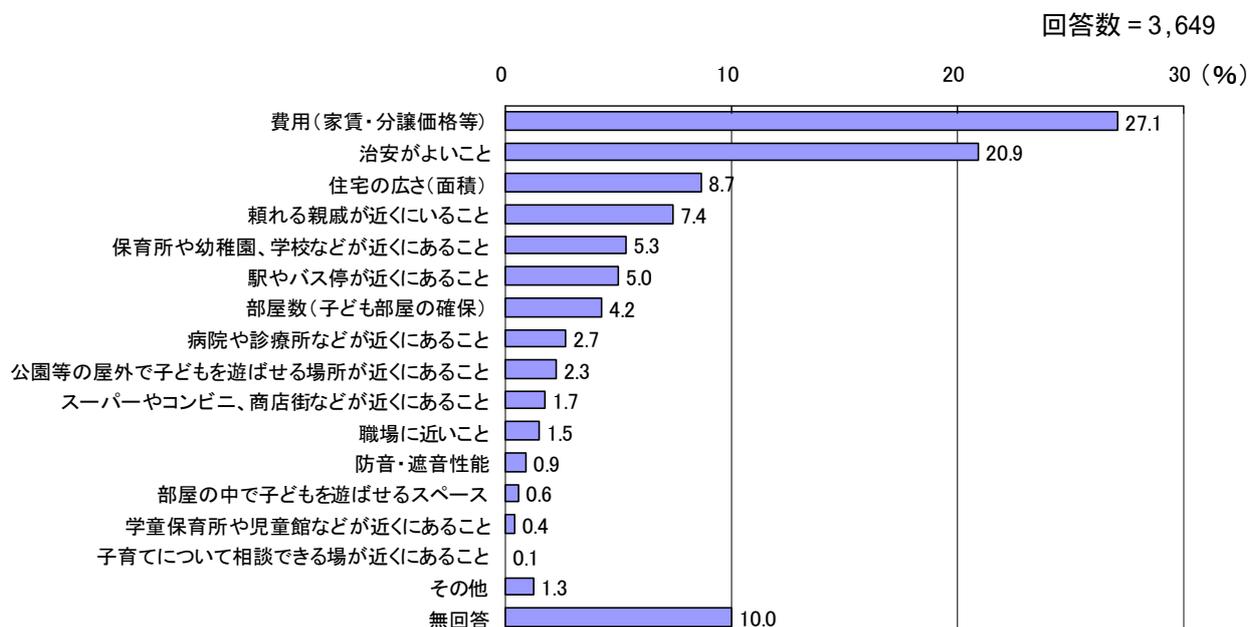
(1) 住宅を選ぶ場合に、重視することは何ですか。(3つまで)

住宅を選ぶ場合に重視することの中で最も多いのが「費用(家賃・分譲価格等)」(56.5%)である。次に「住宅の広さ(面積)」(42.3%)、「治安がよいこと」(37.1%)、「保育所や幼稚園、学校などが近くにあること」(24.9%)、「部屋数(子ども部屋の確保)」(24.8%)、「駅やバス停が近くにあること」(22.7%)などがあげられる。



(2) 住宅を選ぶ場合に、最も重視することは何ですか。

住宅を選ぶ場合に最も重視することでは、上記と同様に「費用(家賃・分譲価格等)」(27.1%)が最も多いが、2番目には「治安がよいこと」(20.9%)となっており、「住宅の広さ(面積)」は8.7%と上記と比較すると低い順位となる。

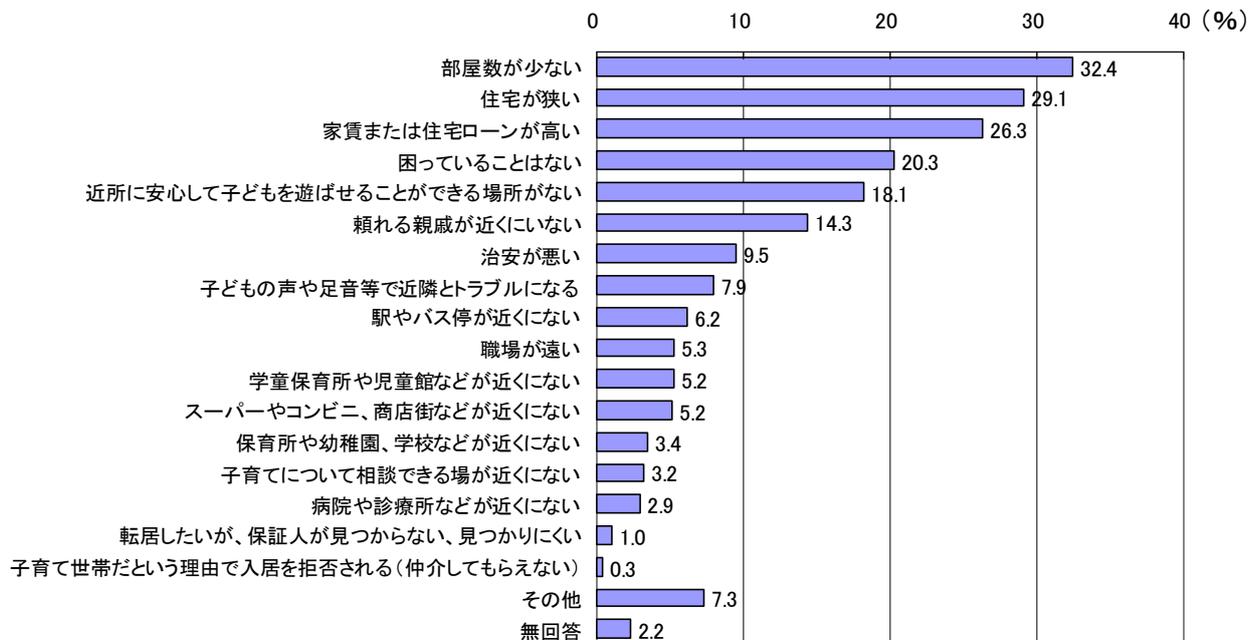


住宅や住環境について 【問6】

住宅に関することで困っていることがありますか。(複数回答)

住宅で困っていることとして最も多いのは「部屋数が少ない」(32.4%)、「住宅が狭い」(29.1%)、次いで、「家賃または住宅ローンが高い」(26.3%)、「困っていることはない」(20.3%)、「近所に安心して子どもを遊ばせることができる場所がない」(18.1%)、「頼れる親戚が近くにいない」(14.3%)などである。

回答数 = 3,649 合計 = 7,299

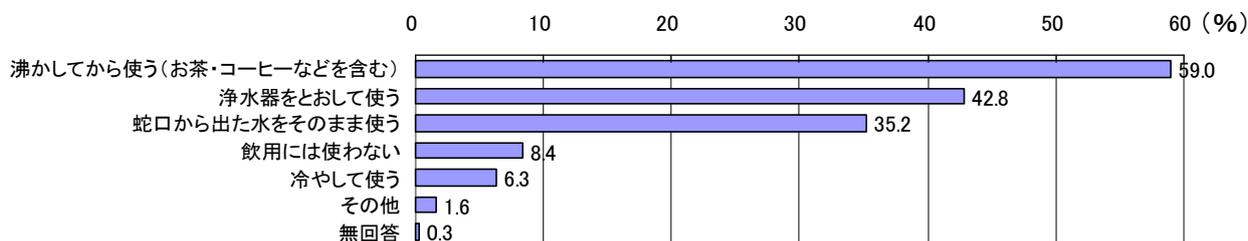


家庭での水道水の飲み方について 【問7】

あなたの家庭では水道水を飲用する場合、どのように使っていますか。(複数回答)

42.8%の家庭が浄水器をとおして使っている。

回答数 = 3,649 合計 = 5,609

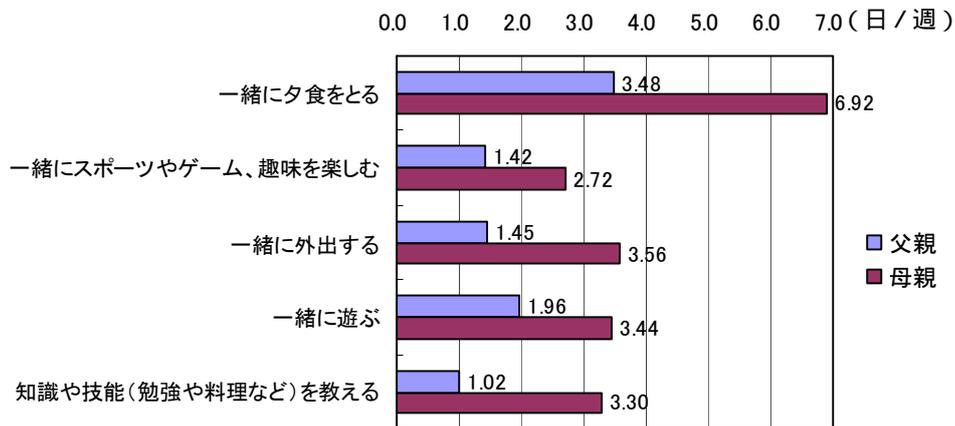


父親、母親と子どもとの関わりについて 【問 8】

父親、母親の方は、お子さんと一緒に、次のようなことをどれくらいしていますか。

父親、母親と子どものかかわり方では、「一緒に夕食をとる」場合の接触頻度は、母親が6.92日/週に対して、父親は3.48日/週と大きな違いが見られる。その他の項目についても、父親の場合、母親との接触頻度の1/2程度であり、「知識や技能(勉強や料理など)を教える」では3倍の開きが見られる。

回答数 = 3,649

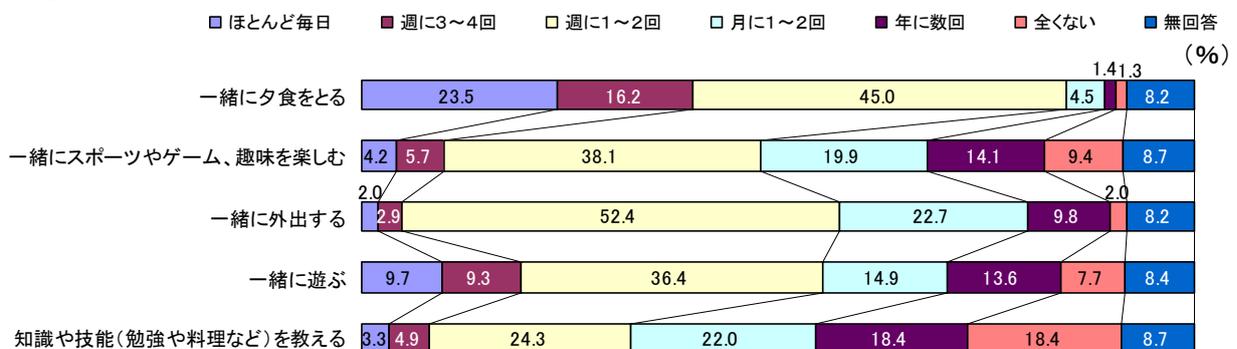


(注)「ほとんど毎日」=7、「週に3~4回」=4、「週に1~2回」=2、「月に1~2回」=0.1、「年に数回」=0.01、「全くない」=0として、回答者数の重みをつけて算出した値である。

行動内容別の頻度 内訳

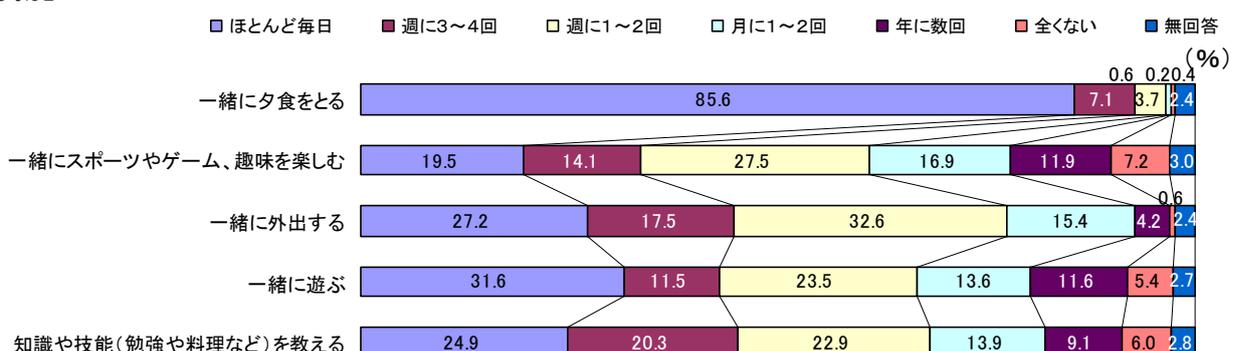
回答数 = 3,649

【父親】



回答数 = 3,649

【母親】

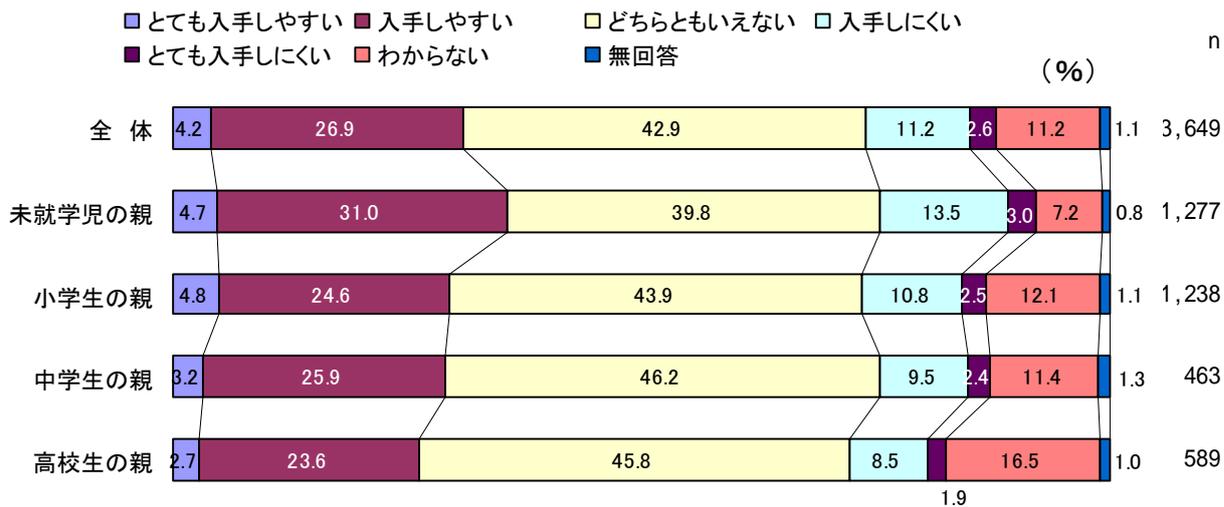


子育てに必要な情報の入手について 【問9】

(1) あなたが欲しい情報を入手しやすいと感じていますか。

全体では、「どちらともいえない」が最も高く 42.9%、次が「入手しやすい」(26.9%)となっている。「入手しにくい」「とても入手しにくい」の合計は 13.8%である。

子育ての情報の入手を子育て段階別にみると、子育て段階別に入手しやすさの構成比に大きな違いはないが、「未就学児の親」の場合は、「入手しやすい」とする割合が平均より4ポイント高く、「わからない」の構成比が平均より4ポイント低い。

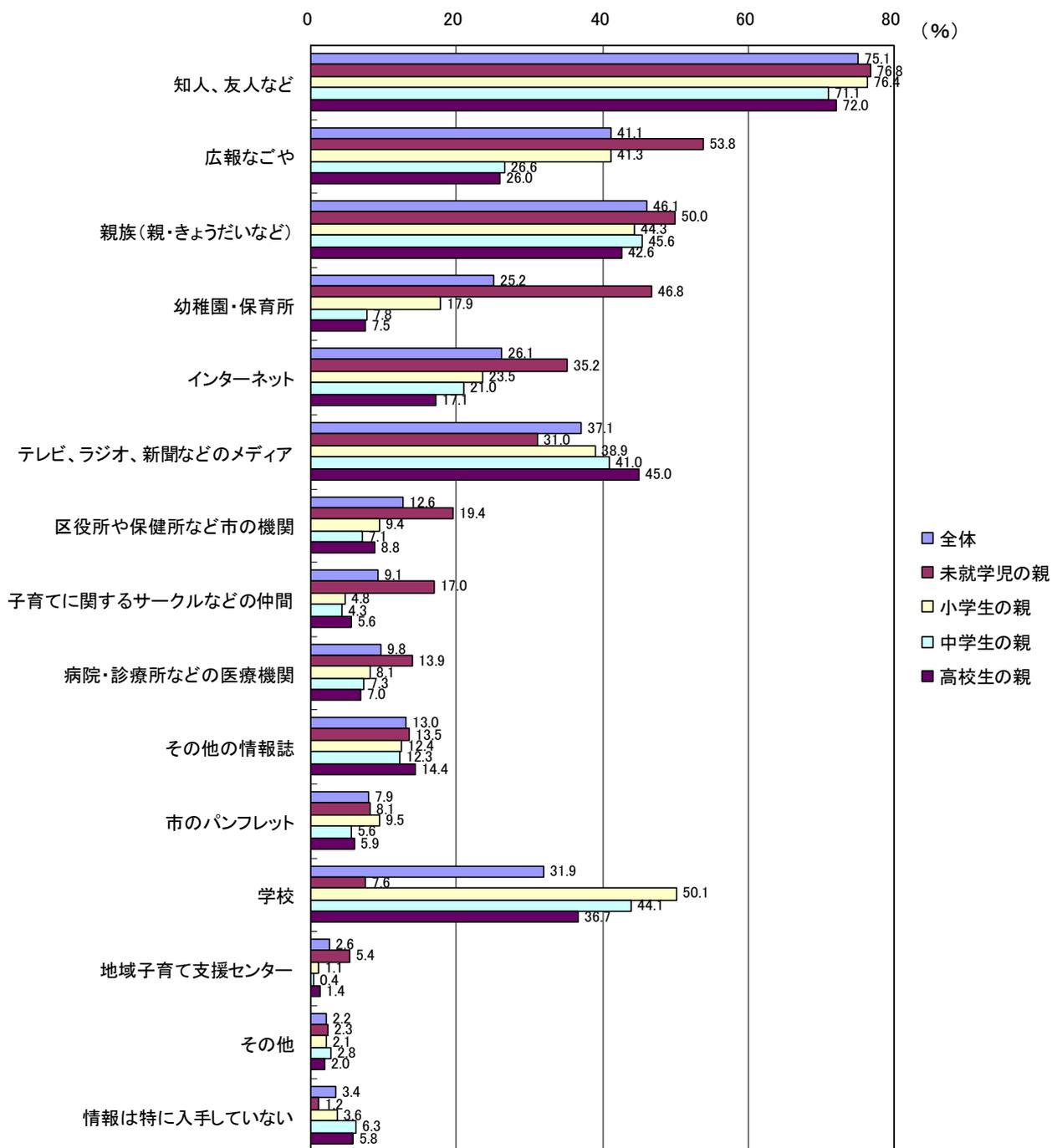


(2) 情報をどのように入手していますか。(複数回答)

全体では、情報の入手方法で最も高いのは「知人、友人など」であり、どの層でも70%以上である。次いで、「親族(親・きょうだいなど)」「テレビ、ラジオ、新聞などのメディア」などでの入手も多い。

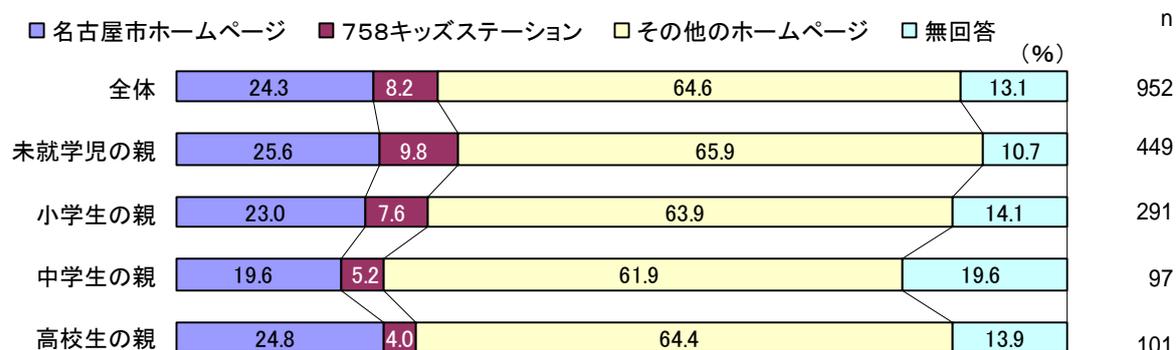
年齢別に見ると、未就学児の親では、「広報なごや」「幼稚園・保育所」「インターネット」などでの入手割合も比較的高く、小学生以上では「学校」での入手割合が高い。

「子育て支援センター」「区役所や保健所など市の機関」「市のパンフレット」などの利用割合は相対的に低い状況にある。



回答数 全体 = 3,649、未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238、中学生の親 = 463、高校生の親 = 589
 合計 全体 = 12,545、未就学児の親 = 4,881、小学生の親 = 4,257、中学生の親 = 1,410、高校生の親 = 1,761

「インターネットで情報を入手する」と回答された保護者の方が見ているホームページの構成
 「その他のホームページ」が最も高く、「名古屋市のホームページ」「758 キッズステーション」の割合は、未就学児の親で 35.4%、小学生の親で 30.6%、中学生の親で 24.8%、高校生の親で 28.8% である。

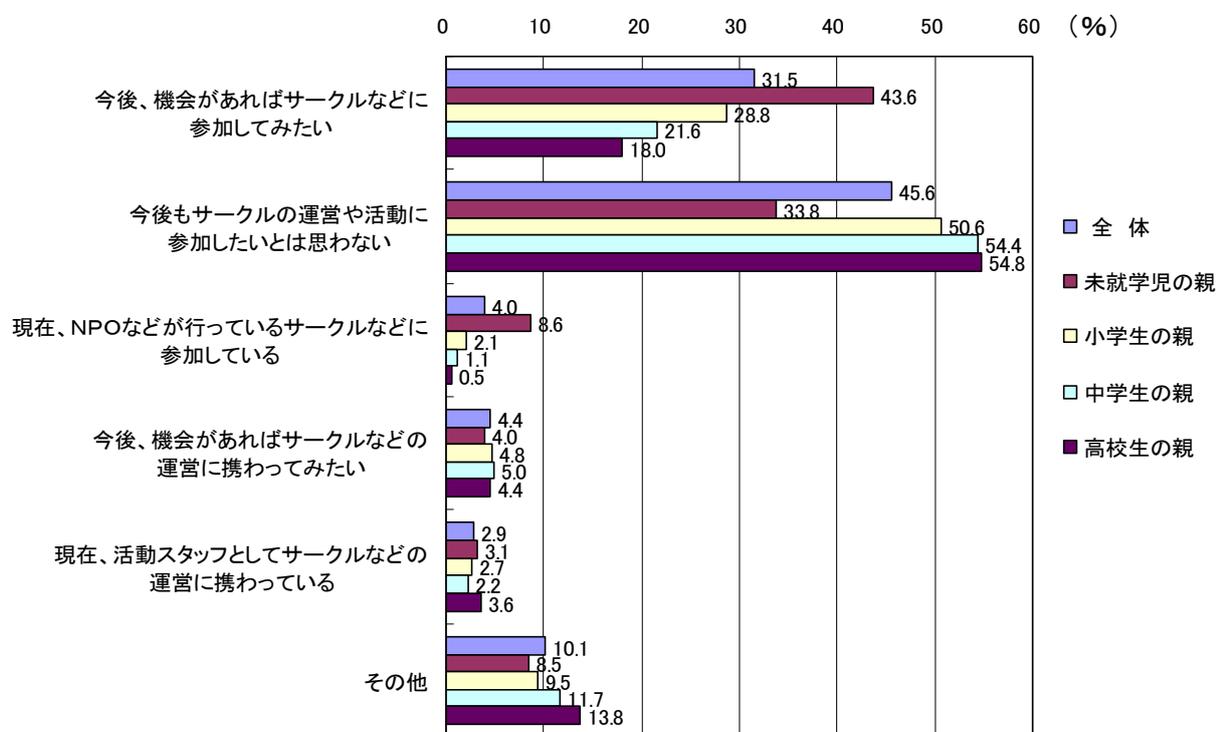


子育てサークルへの参加について 【問 10】

親子交流や子育て支援を目的としたサークルなどの自主的な活動に参加していますか。(複数回答)

全体では、「今後もサークルの運営や活動に参加したいとは思わない」が最も高く、45.6% を占めている。反対に「今後、機会があればサークルなどに参加してみたい」は 31.5% である。

子育て段階別にみると「今後もサークルの運営や活動に参加したいとは思わない」の意向をもつのは小学生以上の子を持つ親であり、未就学児の親では 33.8% と低い。また、「今後、機会があればサークルなどに参加してみたい」の中では未就学児の親で相対的に高く 43.6% を占める。



回答数 全体 = 3,649、未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238、中学生の親 = 463、高校生の親 = 589

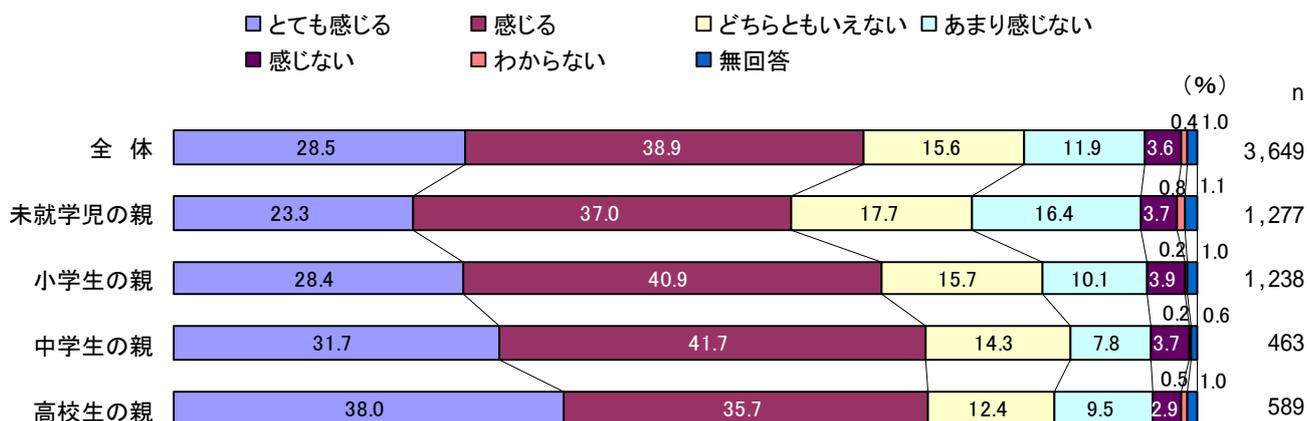
合計 全体 = 3,752、未就学児の親 = 1,331、小学生の親 = 1,271、中学生の親 = 467、高校生の親 = 599

子育ての経済的負担について 【問 11】

(1) 子育てに経済的な負担を感じたことがありますか。

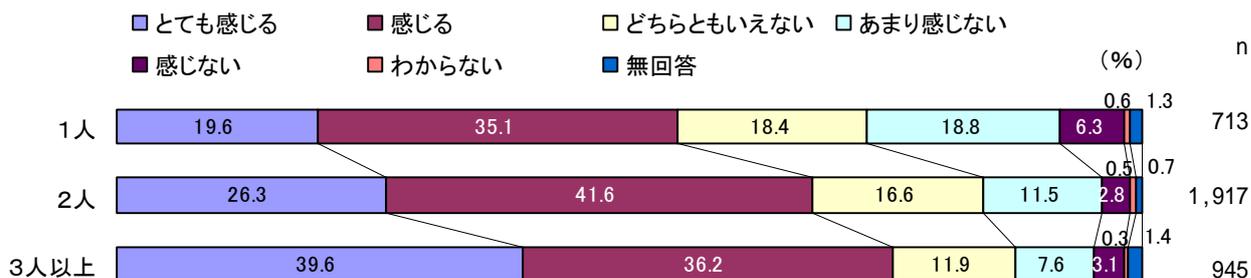
全体では、「とても感じる」「感じる」の割合が高く、合せて7割(67.4%)を占めている。「とても感じる」と「感じる」を合わせた割合は子どもの年齢層が高くなるに従って高くなる。

「とても感じる」と「感じる」を合わせた割合は中学生の親(73.4%)高校生の親(73.7%)でほとんどが変わらないが、高校生の親の方が「とても感じる」割合が高くなっている。



(2) 子どもの数からみた子育ての経済的な負担

子ども数が多いほど「とても感じる」「感じる」の割合が高くなり、この二つの回答を合わせた構成比は、子ども1人では約56%、3人以上で75.8%である。また、「とても感じる」については1人が19.6%に対して、3人以上では39.6%である。

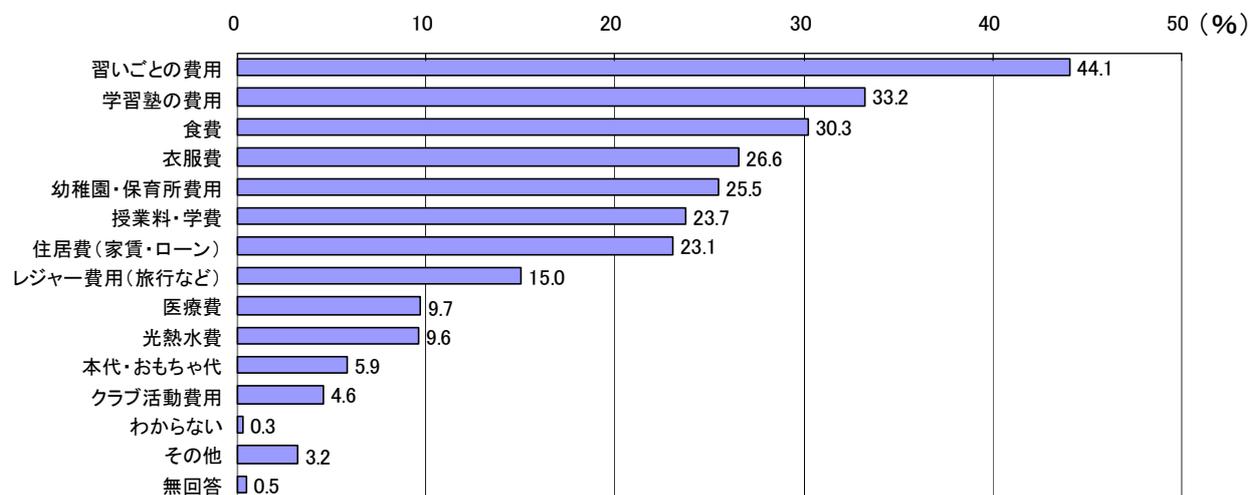


(3) 特に負担を感じる費用は何ですか。(3つまで)

習いごとの費用が最も多く44.1%の人が回答している。

次が学習塾の費用の33.2%、食費30.3%、衣服費26.6%となっている。

回答数 = 2,459 合計 = 6,275

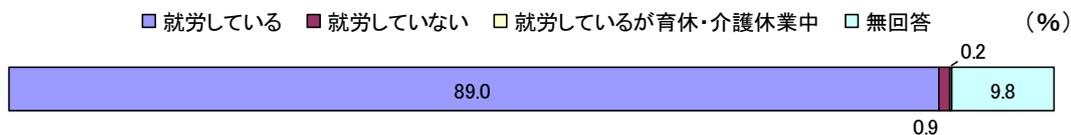


父親の就労状況について 【問12】

(1) 父親の方の就労状況をお答えください。

父親の就労状況では「就労している」が89.0%である。

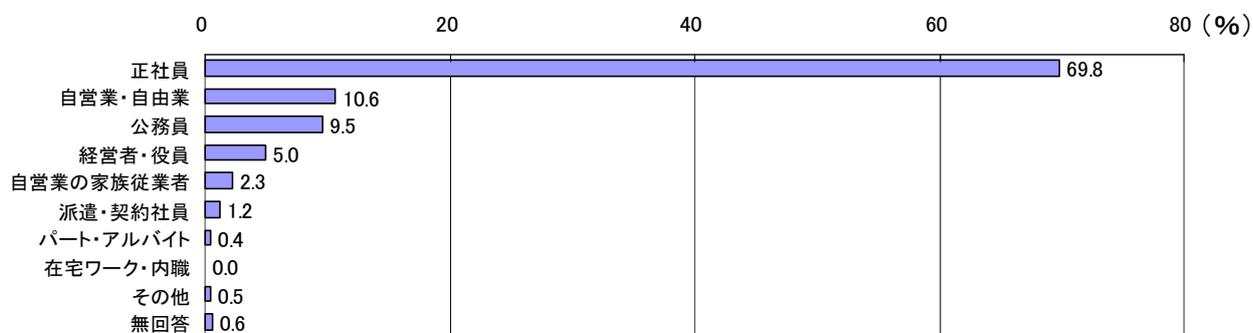
回答数 = 3,649



(2) 1 父親の方の就労形態をお答えください。

正社員が69.8%であり、自営業・自由業が10.6%、公務員が9.5%、経営者・役員が5.0%になっている。

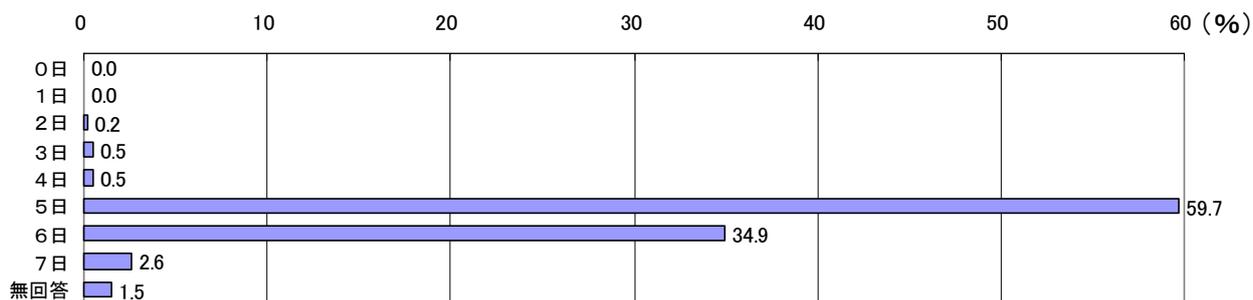
回答数 = 3,256



(2) 2 父親の方の平均的な1週間の就労日数をお答えください。

週5日(週休2日)が59.7%、週6日が34.9%あり、週7日(自営業・自由業等が含まれる)が2.6%の構成になっている。

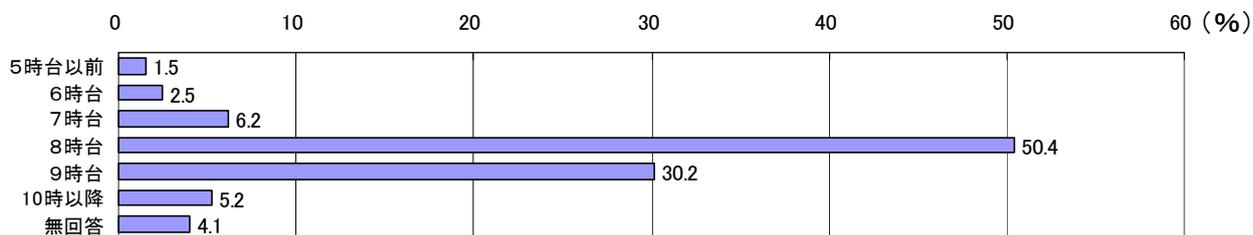
回答数 = 3,256



(2) 3 父親の方の始業時刻をお答えください。

父親の始業時刻は 8 時台が 50.4%、9 時台が 30.2%であり、合わせて 80.6%である。
また、7 時台が 6.2%、10 時以降が 5.2%である。

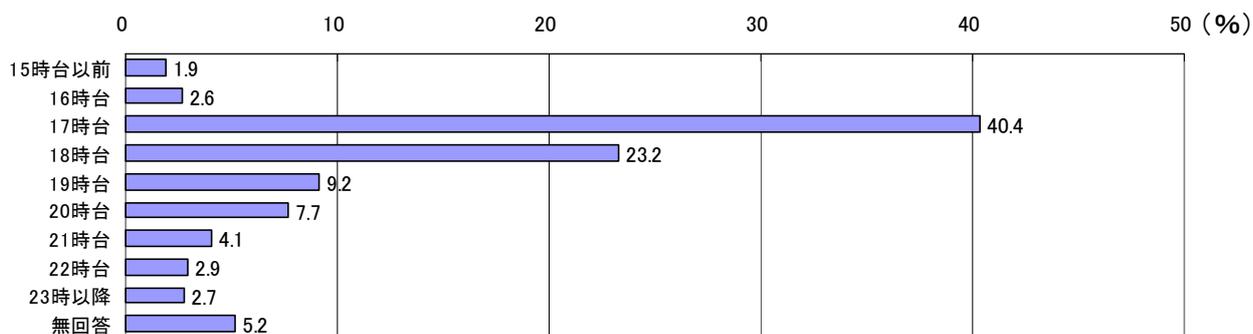
回答数 = 3,256



(2) 4 父親の方の終業時刻をお答えください。

終業時刻は 17 時台が最も多いが、始業時刻よりばらつきが大きく、22 時以降の深夜残業の時間帯でも 5.6%程度である。

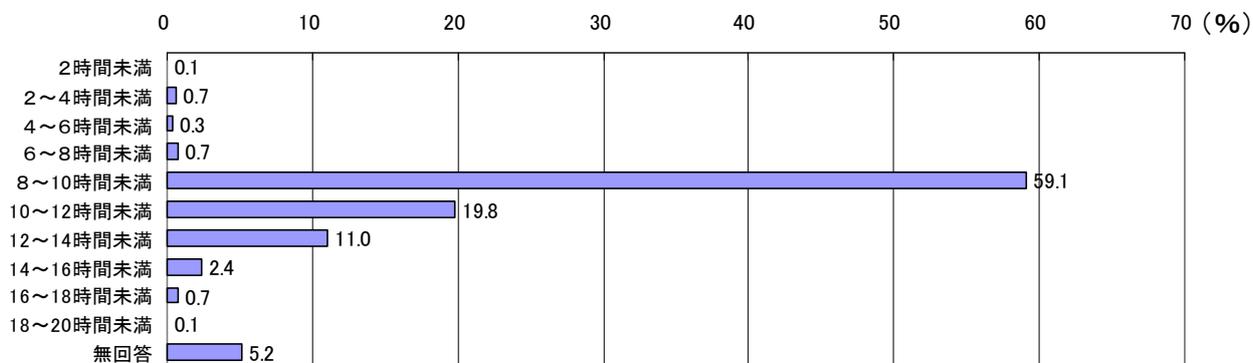
回答数 = 3,256



(2) 5 父親の方の平均的な 1 日の就労時間 (残業を含まない時間) をお答えください。

1 日あたりの就労時間は 8 ~ 10 時間が全体の 59.1%、10 ~ 12 時間が 19.8%、12 ~ 14 時間が 11.0%であり、10 時間以上が 34.0%である。

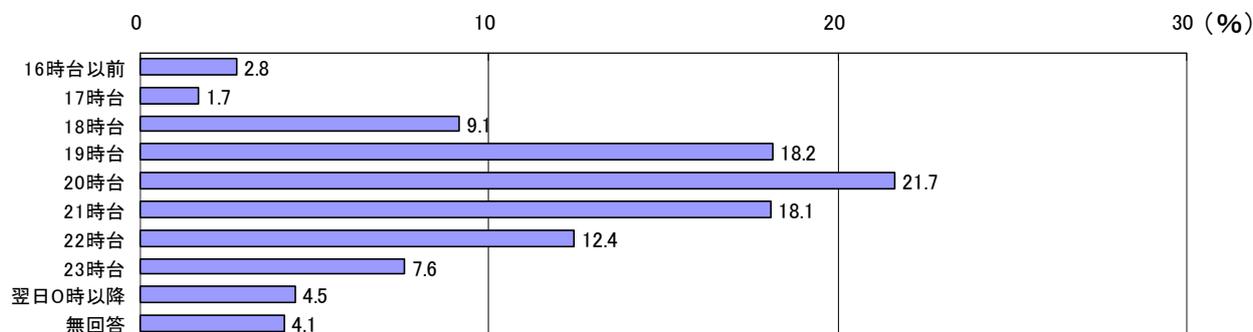
回答数 = 3,256



(2) 6 父親の方の平均的な帰宅時刻をお答えください。

帰宅時刻の分布をみると、20 時台が 21.7% で、22 時以降の帰宅の割合は、全体で 24.5% 程度存在する。

回答数 = 3,256



母親の就労状況について 【問 13】

(1) 母親の方の就労状況をお答えください。

母親の就労状況では「就労している」が 53.4%、「就労していない」が 41.8% である。

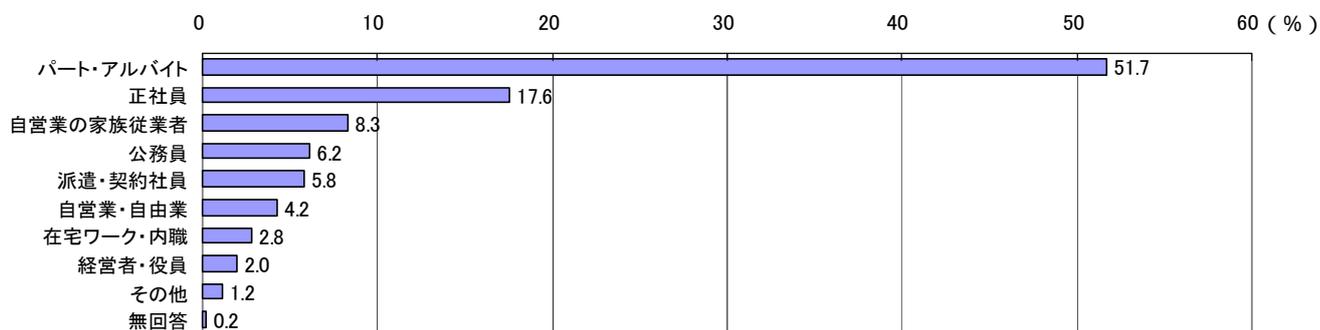
回答数 = 3,649



(2) 1 母親の方の就労形態をお答えください。

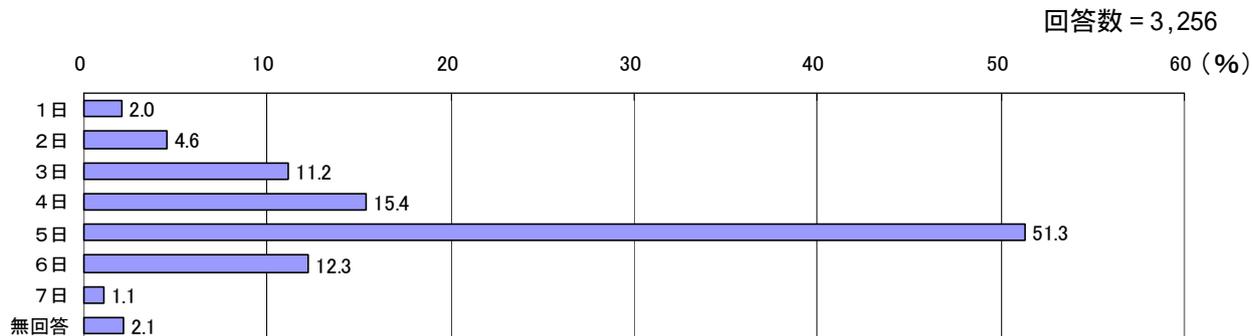
アルバイト・パートが 51.7% であり、正社員が 17.6%、自営業の家族従業者が 8.3%、公務員が 6.2%、派遣・契約社員が 5.8% の構成になっている。

回答数 = 3,256



(2) 2 母親の方の平均的な 1 週間の就労日数をお答えください。

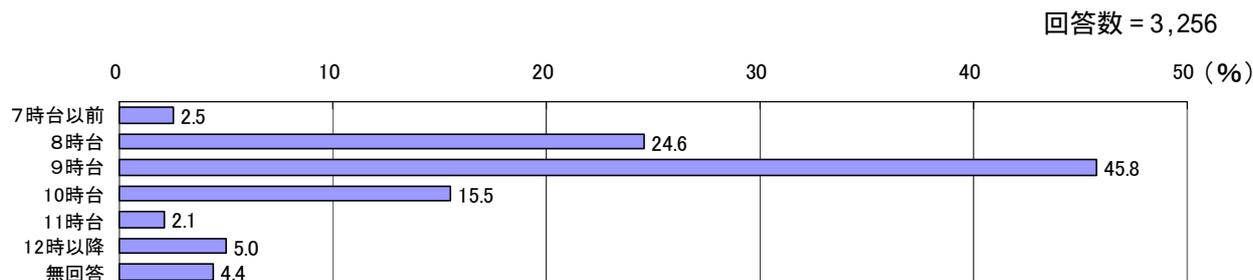
週 5 日 (週休 2 日) が 51.3%、週 4 日が 15.4%、週 6 日が 12.3%あり、週 3 日が 11.2%の構成になっている。



(注) 無回答に 0 日を含む値である。

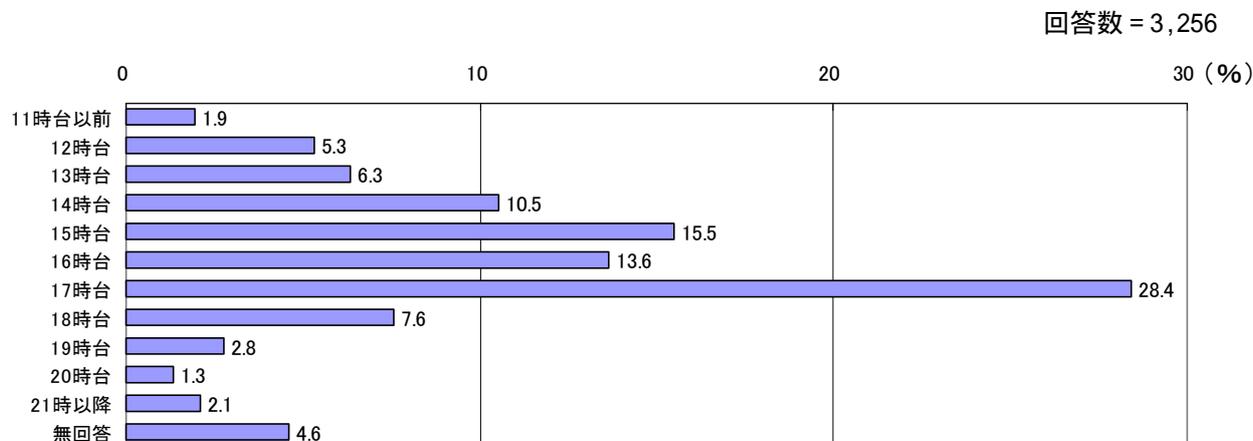
(2) 3 母親の方の始業時刻をお答えください。

母親の始業時刻は 9 時台の 45.8%が最も多く、8 時台の 24.6%と合わせて 70.4%である。また、7 時台以前が 2.5%、10 時以降が 22.6%である。



(2) 4 母親の方の終業時刻をお答えください。

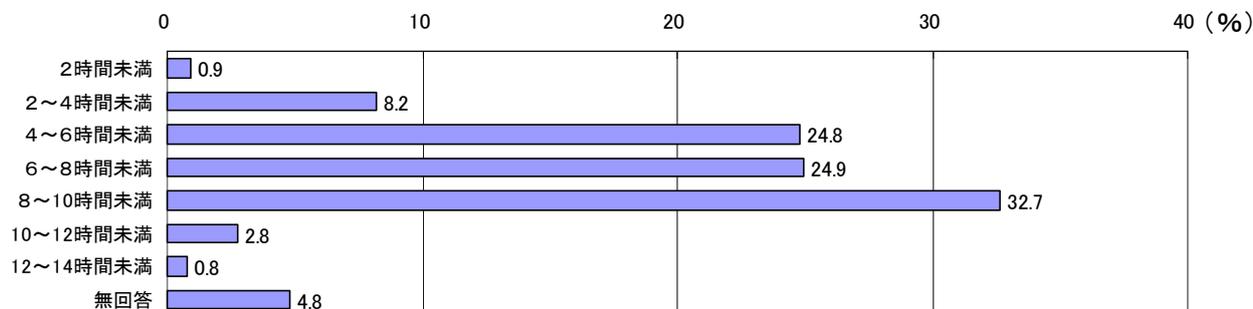
終業時刻は 17 時台が最も多いが、17 時以前の時間帯で 53.2%、17 時以降の時間帯の合計は 42.2%である。



(2) - 5 母親の方の平均的な1日の就労時間(残業を含まない時間)をお答えください。

1日あたりの就労時間は8~10時間が全体の32.7%、6~8時間が24.9%、4~6時間が24.8%であり、2~4時間が8.2%である。全体の中で6時間未満の就労は33.9%である。

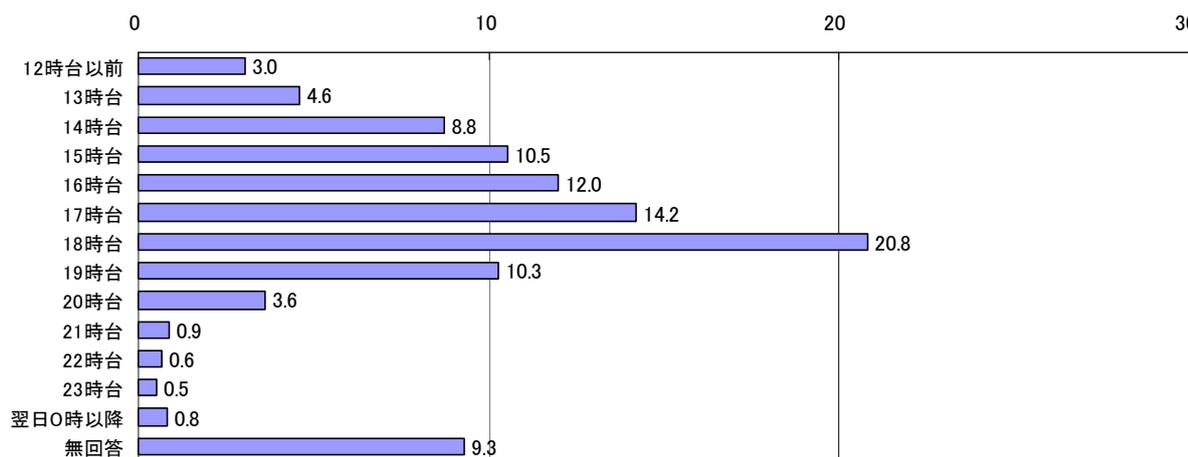
回答数 = 3,256



(2) 6 母親の方の平均的な帰宅時刻をお答えください。

帰宅時刻の分布をみると、18時台が最も多く20.8%である。これらの中で、17時以前に帰宅する割合は53.1%である。

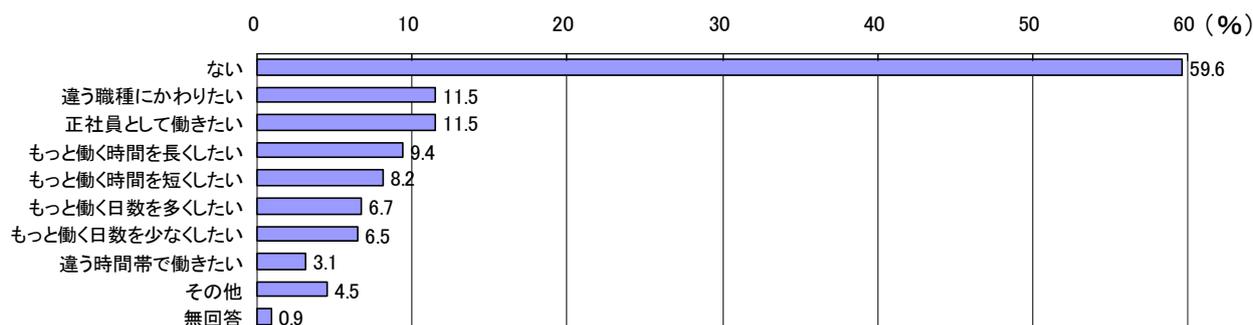
回答数 = 3,256



(3) 母親の方に転職の希望がありますか。(複数回答)

6割は「ない」と回答し、その他4割の「転職希望」の内容をみると、「違う職種にかわりたい」(11.5%)、「正社員として働きたい」(11.5%)、「もっと働く時間を長くしたい」(9.4%)、反対に「もっと働く時間を短くしたい」(8.2%)などである。

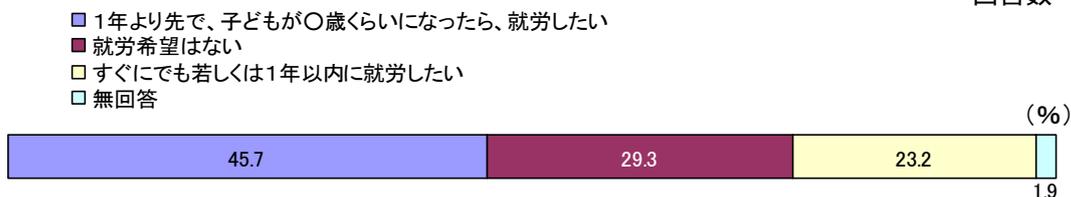
回答数 = 2,011 合計 = 2,453



(4) 1 母親の方は、今後、就労の希望がありますか。

就労希望は全体の7割であり、子どもがある年齢になったら就労したい(45.7%)が最も多く、すぐにでも若しくは1年以内に就労したいは23.2%である。

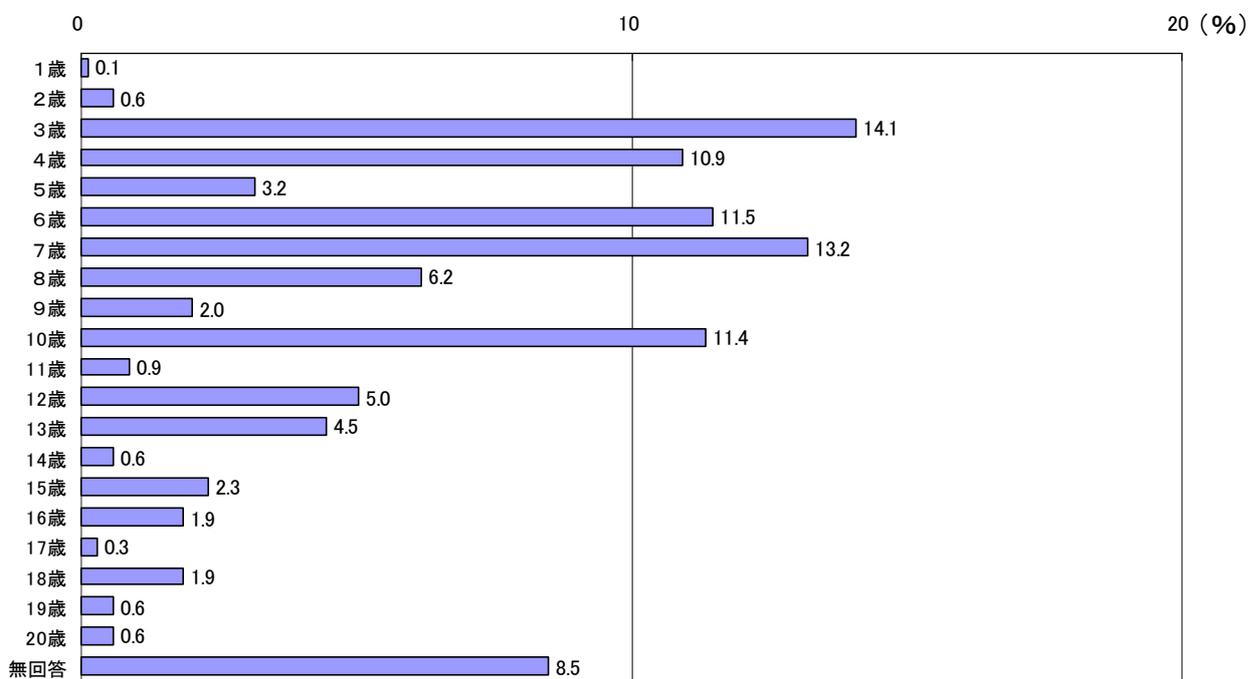
回答数 = 1,524



1年より先の就労を希望する場合の子どもの年齢は、子どもが3～7歳頃までの割合が高く、1～2歳の頃の就労希望割合は低く、1歳、2歳あわせて1.6%である。

就労開始する時の子どもの年齢

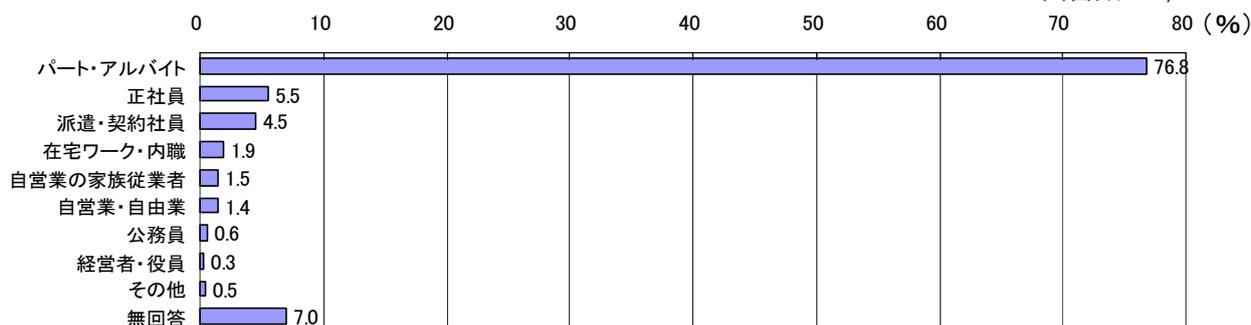
回答数 = 696



(4) 2 母親の方が今後就労する場合、どのような就労を希望しますか。

「パート・アルバイト」が全体の76.8%であり、次が「正社員」(5.5%)、「派遣・契約社員」(4.5%)である。

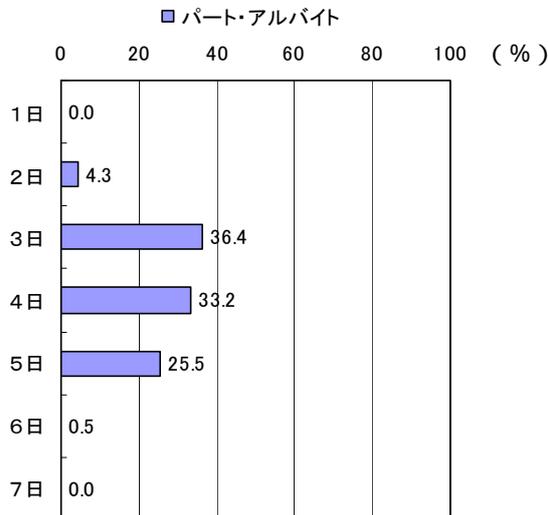
回答数 = 1,049



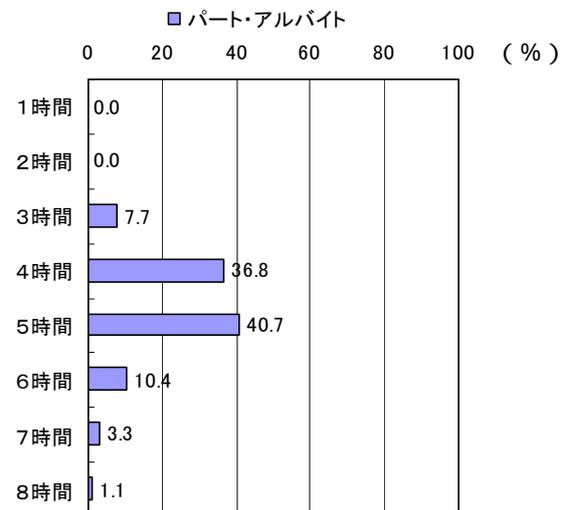
(4) 3パート・アルバイト、派遣・契約社員を希望の方は1週間あたりの就労日数及び1日あたりの就労時間を記入してください。

1週間の中でのパート・アルバイトの日数では、3日、4日、5日の人が多く、1日あたりの時間では4時間、5時間が多い。

【日/週】



【時間/日】



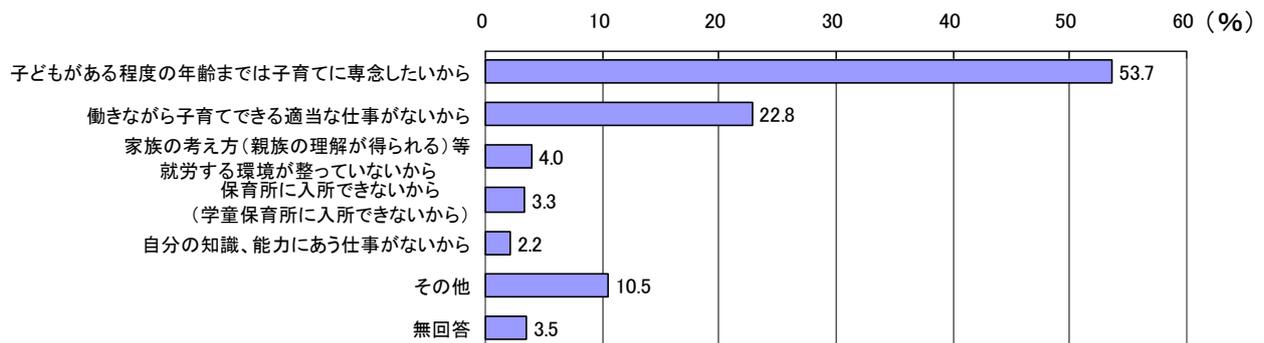
【日/週】 = 184、【時間/日】 = 182

(注) 派遣・契約社員の回答数は少なく2人である。(内容は割愛)

(4) 4母親の方に就労希望があるのに、現在働いていない理由は何ですか。

最大の理由は「子どもがある程度の年齢までは子育てに専念したいから」(53.7%)であり、次が「働きながら子育てできる適当な仕事がないから」(22.8%)である。

回答数 = 1,049

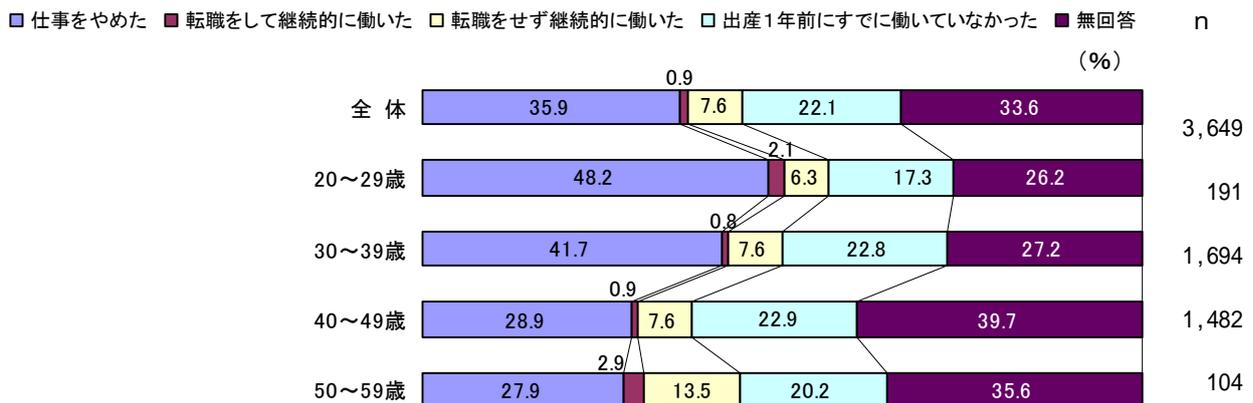
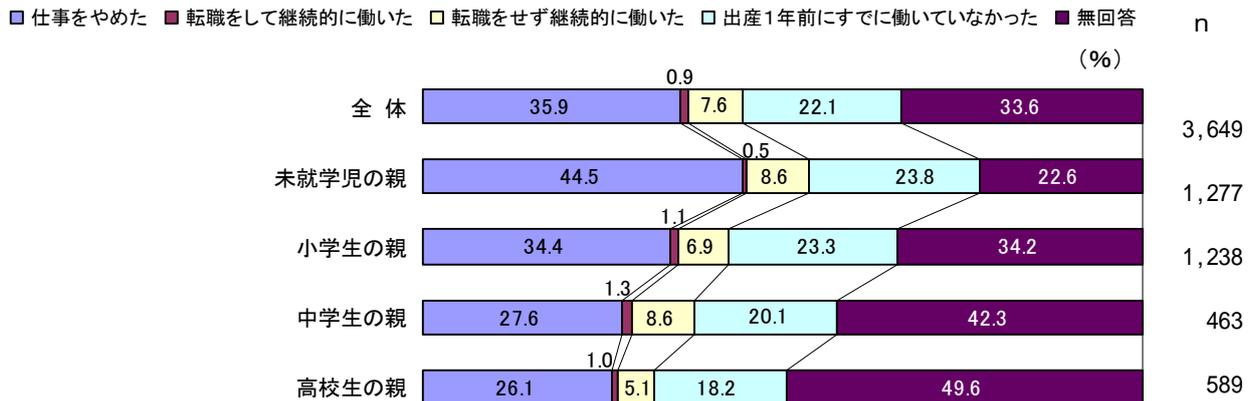


出産にともなう母親の退職や転職について 【問 14】

(1) 母親の方は出産前後に仕事をやめたり、転職をしたりしましたか。

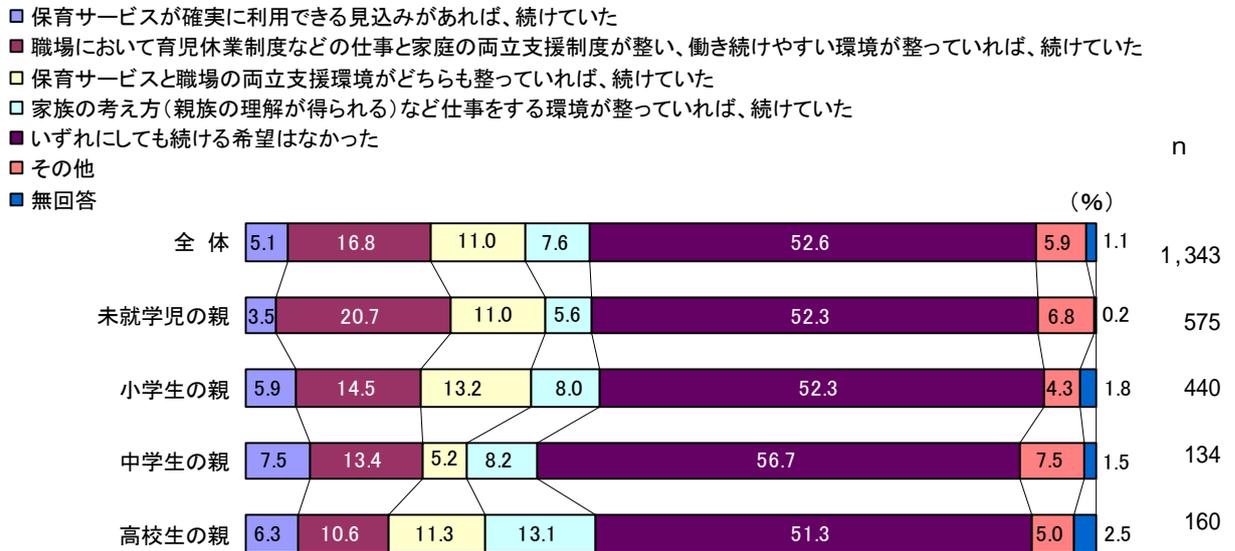
全体では「仕事をやめた」(35.9%)が最も多く、次が「出産1年前にすでに働いていなかった」(22.1%)、「転職をせず継続的に働いた」(7.6%)である。

子育ての段階別にみると、未就学児の親で「仕事をやめた」(44.5%)が最も多く、「出産1年前にすでに働いていなかった」(23.8%)の割合も高い。また、母親の年齢別にみると、20代、30代の母親で「仕事をやめた」割合が高い傾向がある。



(2) 母親の方は仕事と家庭の両立を支援する保育サービスや環境などが整っていたら、出産前後にしていた仕事を続けましたか。

「いずれにしても続ける希望はなかった」が全体で52.6%を占めており、次が「職場において育児休業制度などの仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、続けていた」(16.8%)であり、職場の支援も必要とされている。



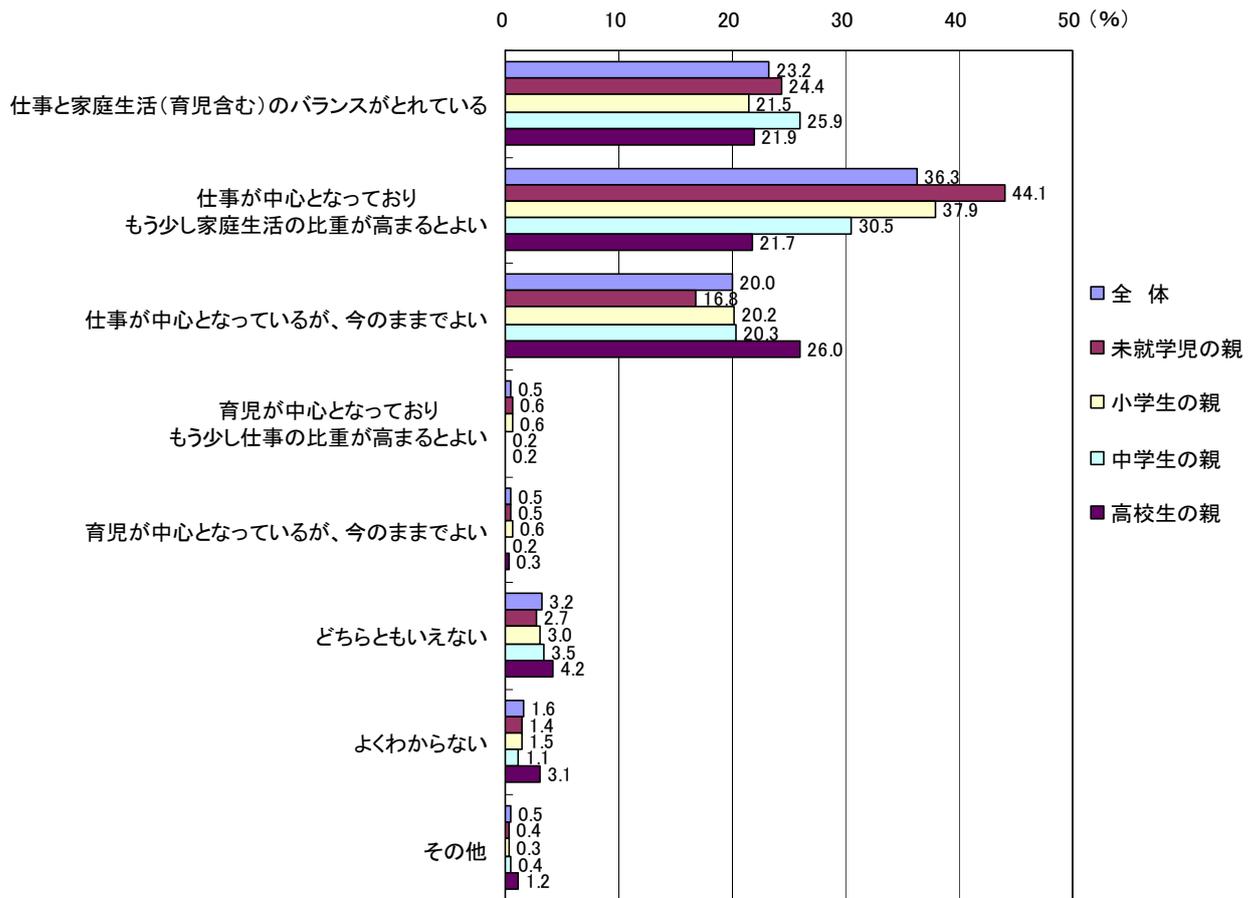
仕事と生活のバランスについて 【問 15】

(1) 父親の仕事と生活のバランスはとれていると感じていますか。

全体では「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」(36.3%) が最も多く、次が「仕事と家庭生活(育児含む)のバランスがとれている」(23.2%)、「仕事を中心となっているが、今のままでよい」(20.0%)である。

子育て段階別にみると、未就学児の親では「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」(44.1%) が特に高い。

【父親】



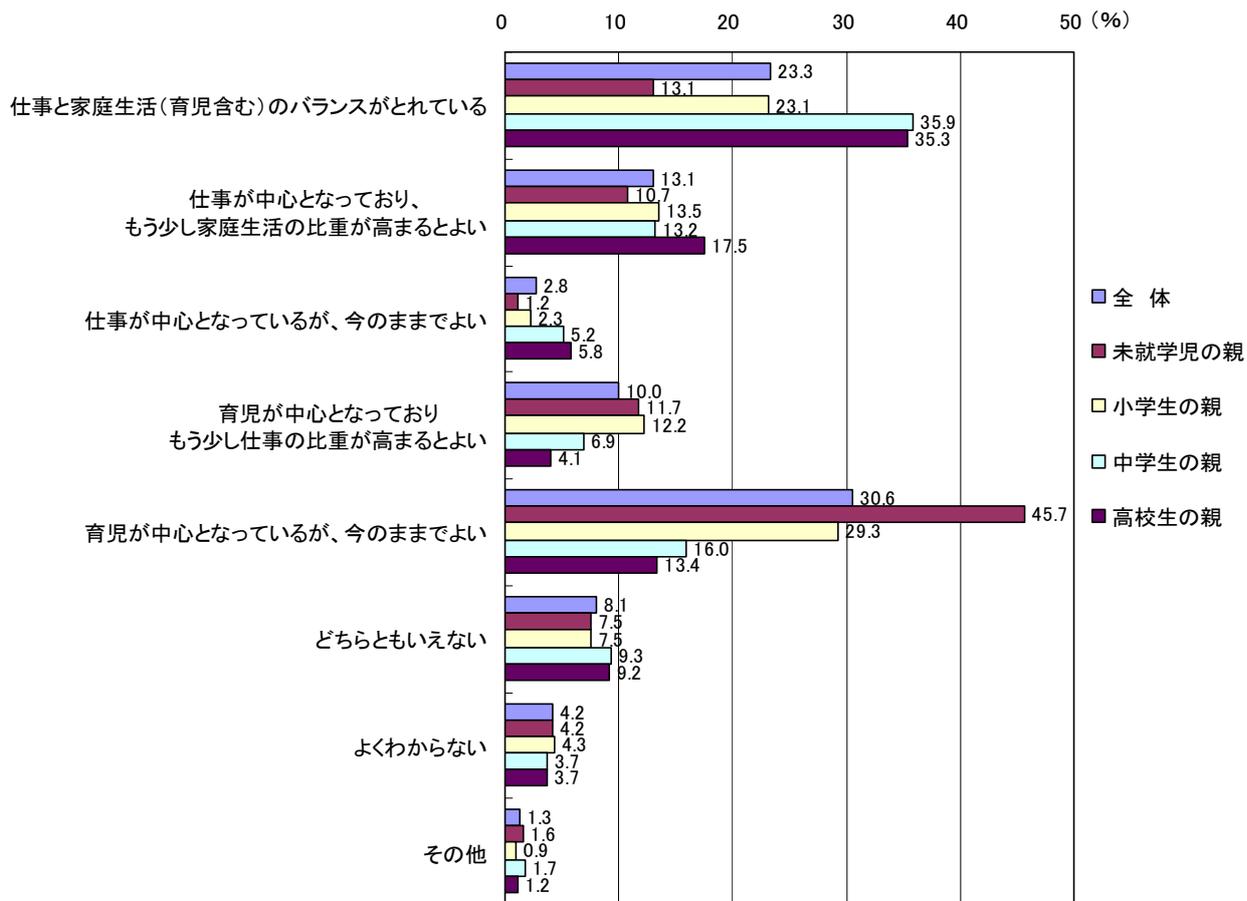
回答数 全体 = 3,649、未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238、中学生の親 = 463、高校生の親 = 589

(2) 母親の仕事と生活のバランスはとれていると感じていますか。

全体では「育児が中心となっているが、今のままでよい」(30.6%)が最も多く、次が「仕事と家庭生活(育児含む)のバランスがとれている」(23.3%)、「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」(13.1%)である。

子育て段階別にみると、未就学児の親では「育児が中心となっているが、今のままでよい」(45.7%)が特に高い。

【母親】



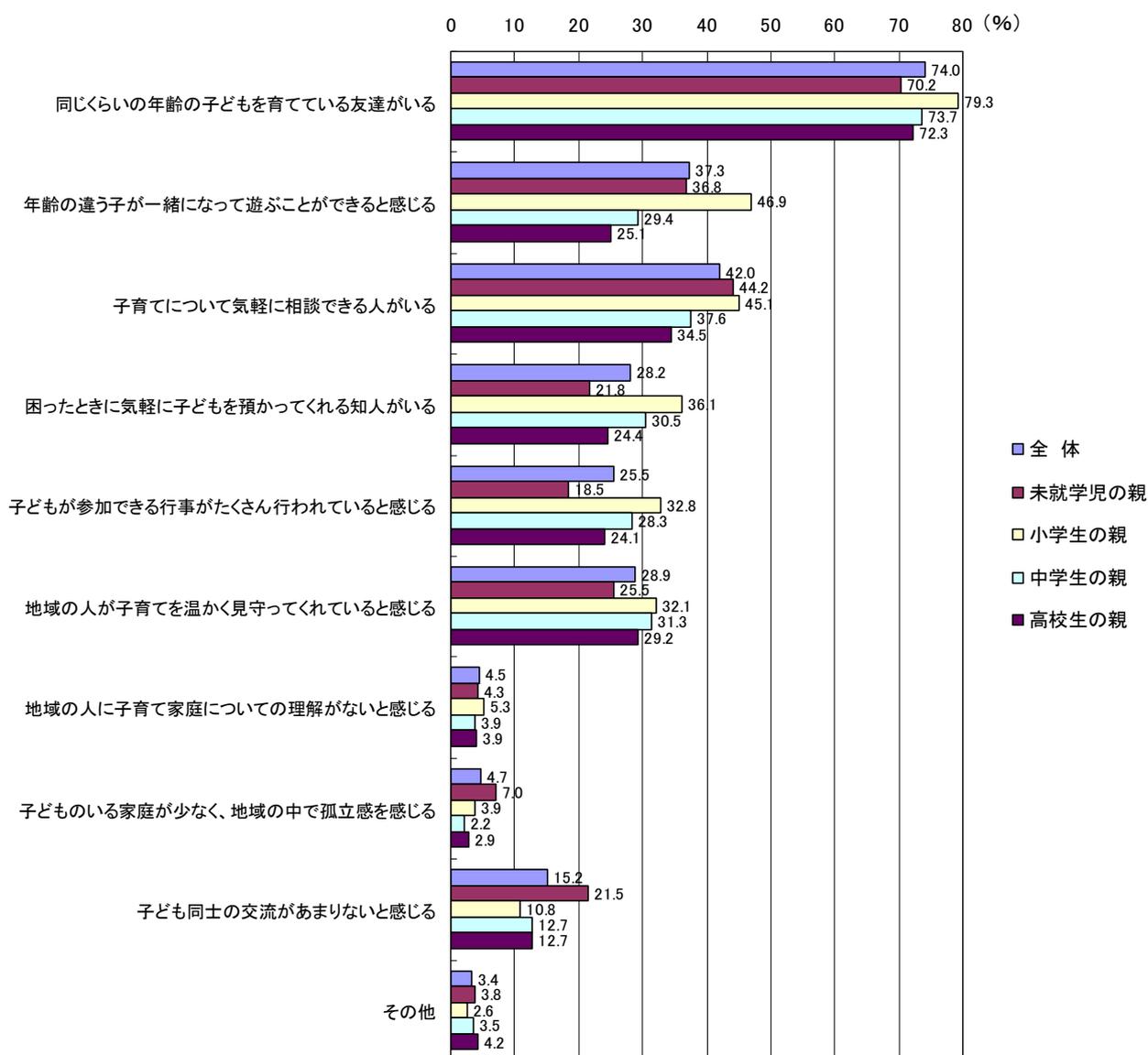
回答数 全体 = 3,649、未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238、中学生の親 = 463、高校生の親 = 589

地域の子育ての状況について 【問 16】

あなたのお住まいの地域に該当するものをお答え下さい。(複数回答)

全体では「同じくらいの年齢の子どもを育てている友達がいる」(74.0%)が最も多く、次が「子育てについて気軽に相談できる人がある」(42.0%)、「年齢の違う子が一緒になって遊ぶことができると感じる」(37.3%)である。

子育て段階別にみると、小学生の親では「同じくらいの年齢の子どもを育てている友達がいる」(79.3%)や「年齢の違う子が一緒になって遊ぶことができると感じる」(46.9%)、「困ったときに気軽に子どもを預かってくれる知人がある」(36.1%)などの項目について、その他の段階の親よりも割合が高い。一方、未就学児の親では、「子どものいる家庭が地域に少なく、地域の中で孤立感を感じる」(7.0%)、「子ども同士の交流が少ないと感じる」(21.5%)について、その他の段階の親よりも割合が高い。



回答数 全体 = 3,649、未就学児の親 = 1,277、小学生の親 = 1,238、中学生の親 = 463、高校生の親 = 589
 合計 全体 = 9,715、未就学児の親 = 3,260、小学生の親 = 3,679、中学生の親 = 1,186、高校生の親 = 1,394

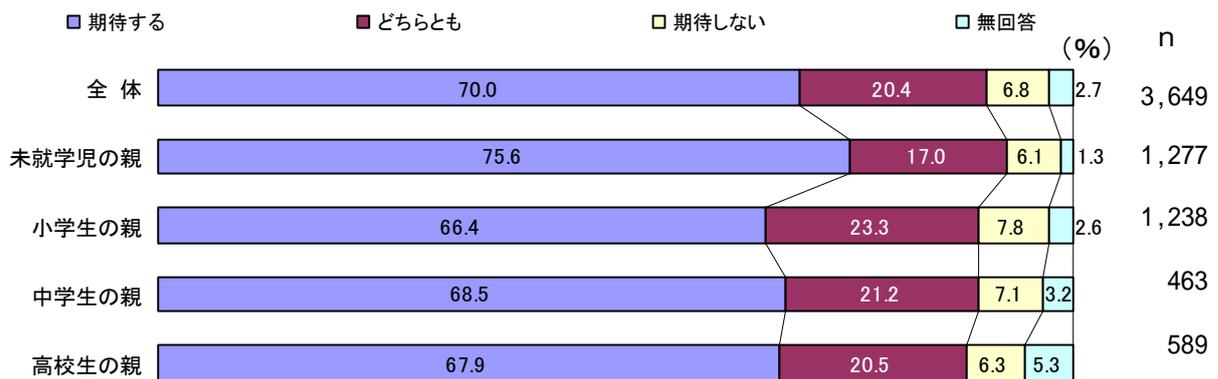
名古屋市に期待する子育て支援への取り組みについて 【問 17】

名古屋市の子育て支援に対して期待しますか。現在の取り組みについてどのように感じますか。

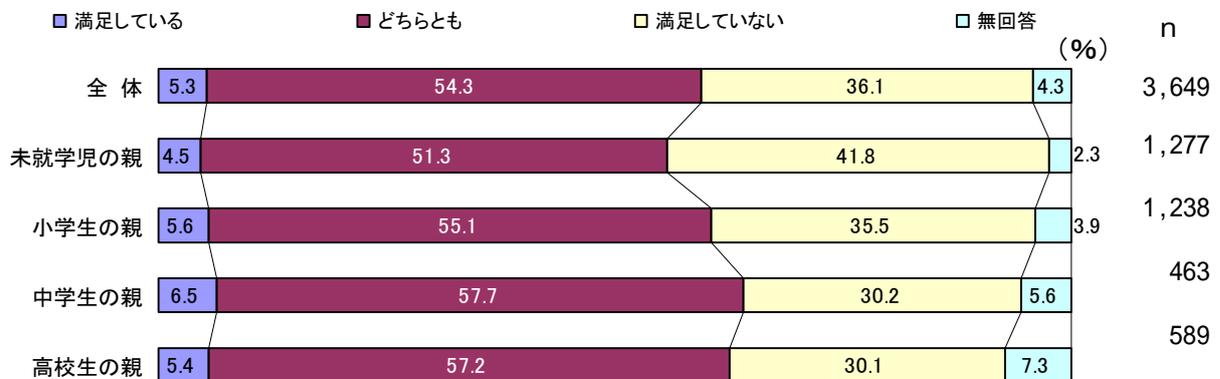
ア．労働時間の短縮、育児休業者介護休業制度など、家庭生活と両立する職場環境の整備

期待する割合は全体では70.0%であるが、未就学児の親が75.6%と他の層に比べると高い。
現状への満足度（満足している）は全体では5.3%であるが、未就学児の親（4.5%）で最も低い。

A) 期待するかどうか



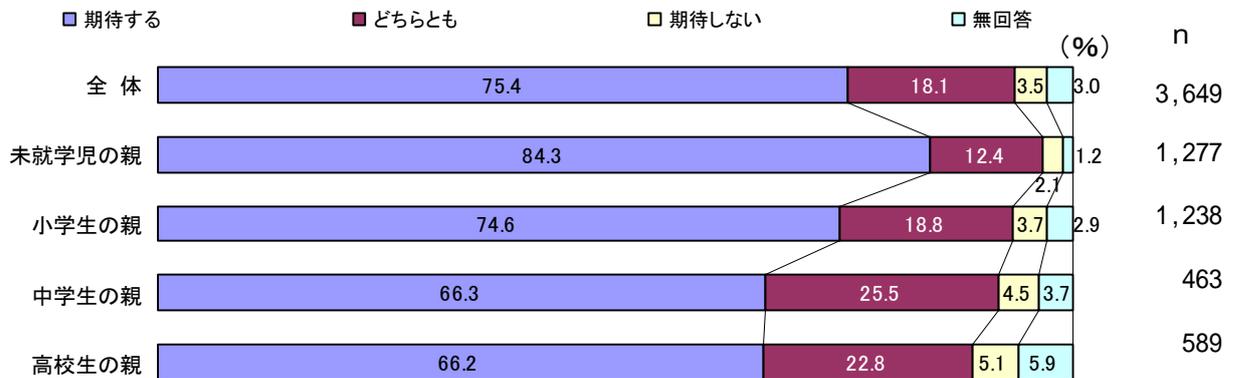
B) 現状の満足度



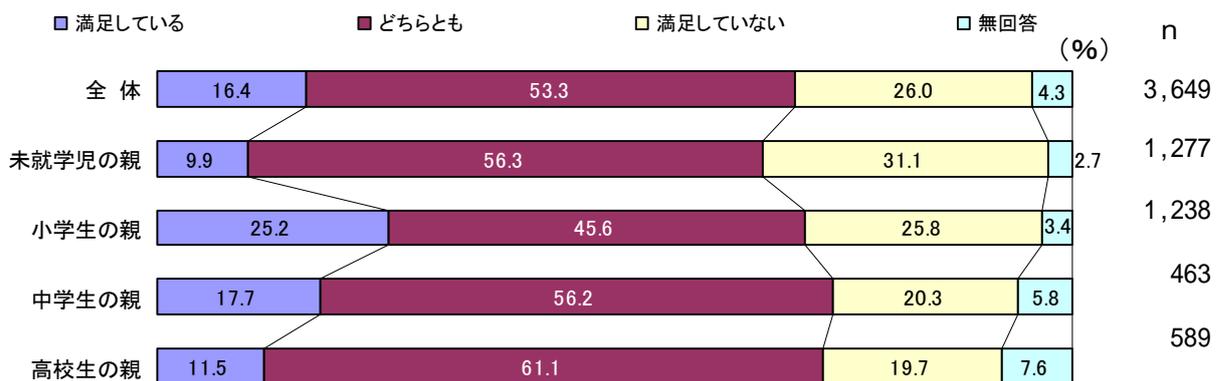
イ．多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実

期待する割合は全体では75.4%であるが、未就学児の親が84.3%と他の層に比べると高い。
現状への満足度（満足している）は、小学生の親の25.2%が最も高く、未就学児の親（9.9%）で最も低い。

A) 期待するかどうか



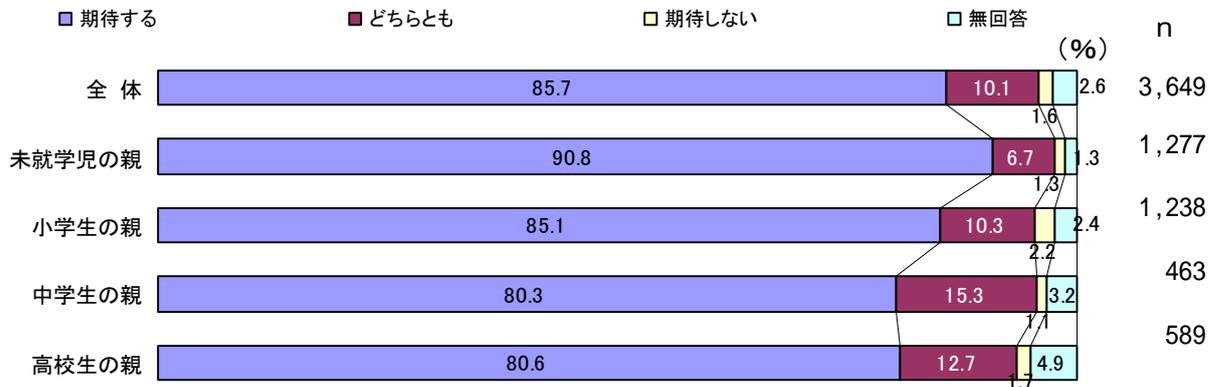
B) 現状の満足度



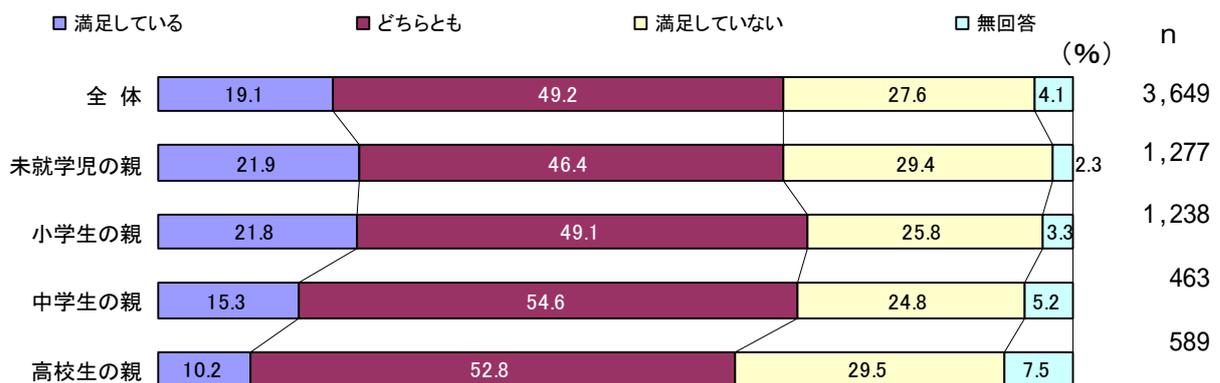
ウ．安心して出産や子育てができる医療サービスの充実

期待する割合は全体では 85.7%と全項目の中で 2 番目に高いが、未就学児の親はその中でも 90.8%と高い。現状への満足度(満足している)は、未就学児の親(21.9%)、小学生の親(21.8%)が中学生以上の親に比較すると高い。

A) 期待するかどうか



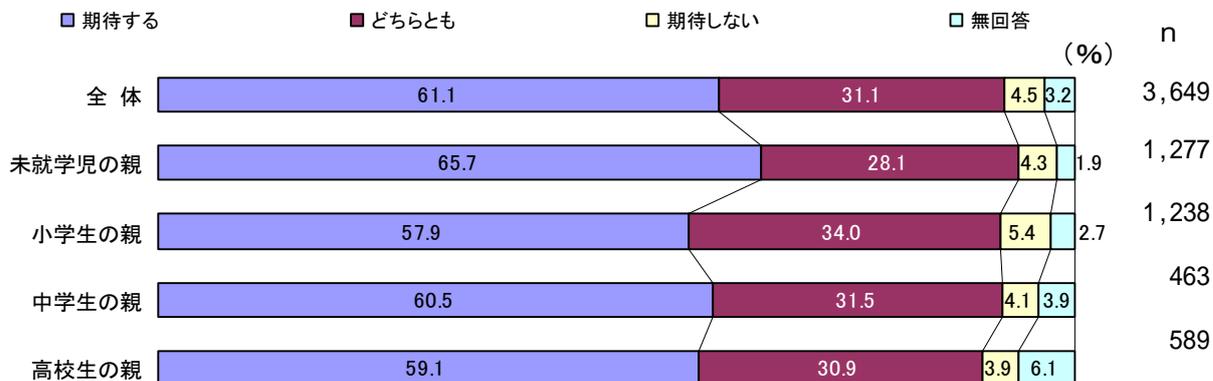
B) 現状の満足度



エ．子育てについて相談できる機関やサービスの充実

期待する割合は全体では 61.1%と全項目の中で最も低い。現状への満足度(満足している)は、全体では 10.2%であるが、子どもの年齢が小さいほど高く、未就学児の親では 14.6%になっている。

A) 期待するかどうか



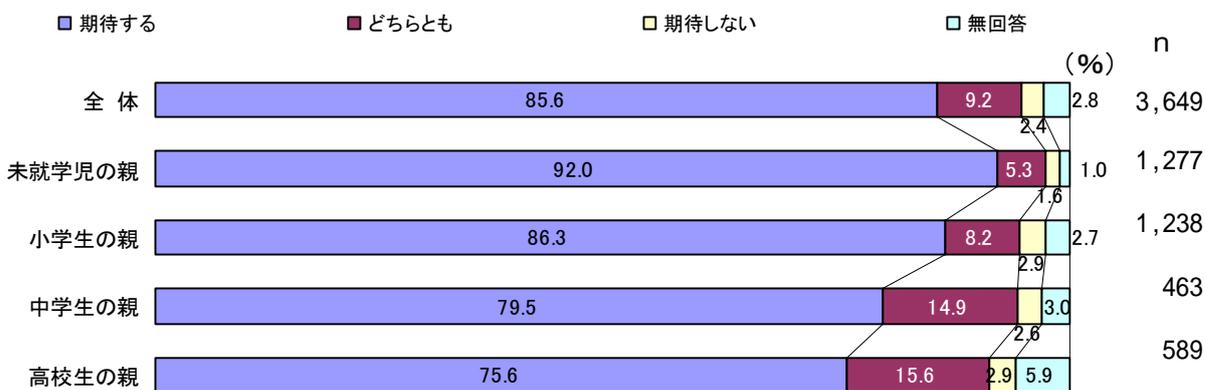
B) 現状の満足度



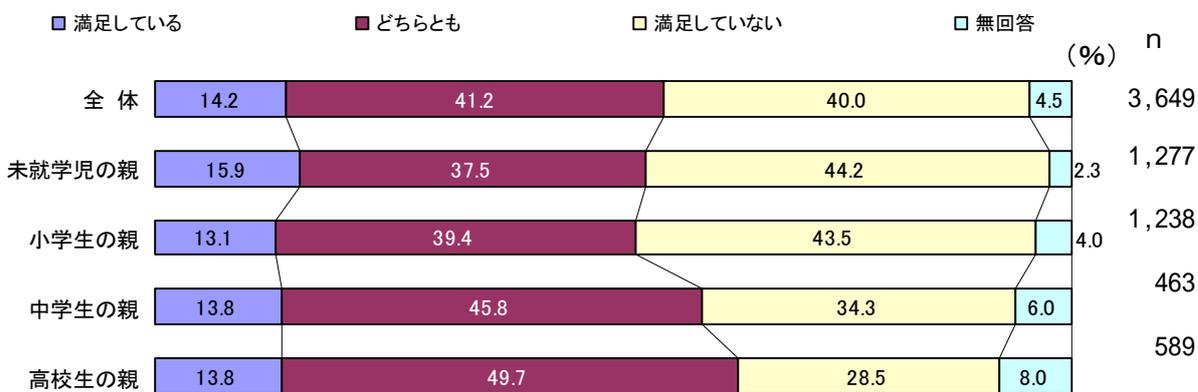
オ．住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり

期待する割合は全体では 85.6%と全項目の中で3番目に高いが、未就学児の親はその中でも 92.0%と高い。現状への満足度(満足している)は、全体で 14.2%であり、子どもの年齢による差はあまりない。

A) 期待するかどうか



B) 現状の満足度



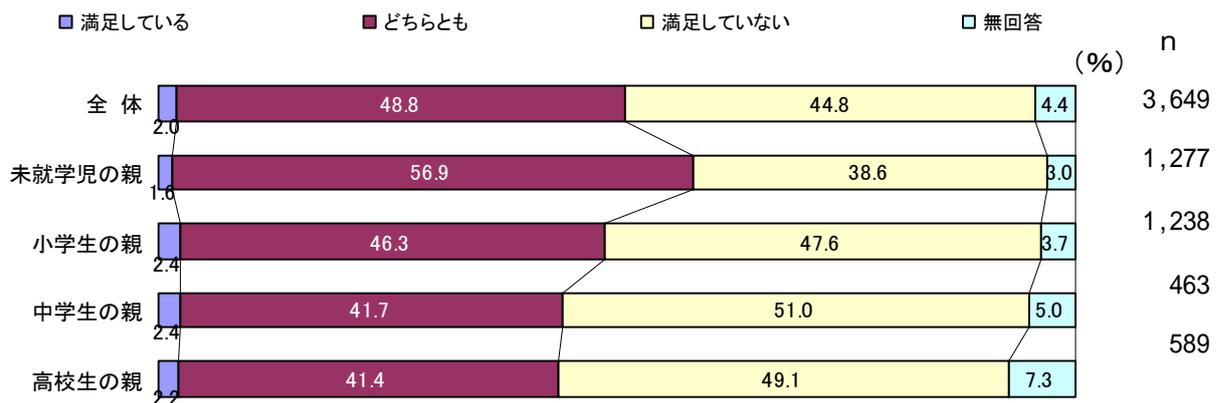
カ．受験戦争やいじめ解消等のゆとりのある教育の実現

期待する割合は全体では70.2%であり、高校生の親が67.7%で他の年齢と比べると若干低い。
現状への満足度(満足している)は、全体で2.0%であり、他の項目に比較すると満足度が低い。

A) 期待するかどうか



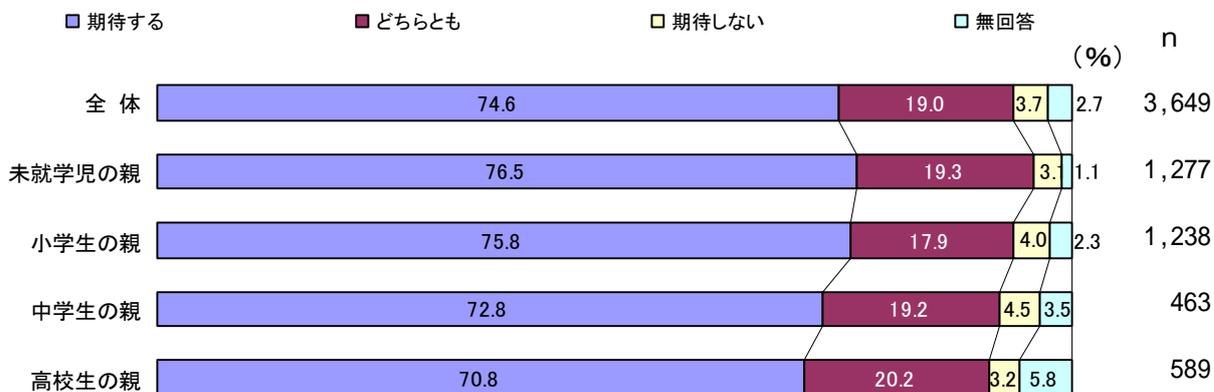
B) 現状の満足度



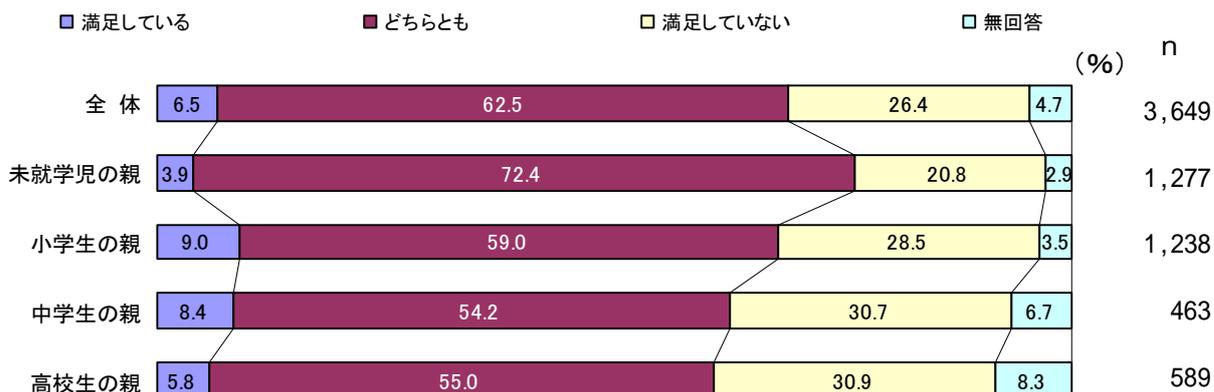
キ．遊び・スポーツ・文化活動など、豊かな人間性をつくる学校外活動の充実

期待する割合は全体では74.6%であり、高校生の親が70.8%で他の年齢と比べると若干低い。
現状への満足度（満足している）は、全体で6.5%であり、小学生の親の9.0%がと他の年齢に比べると高くなっている。

A) 期待するかどうか



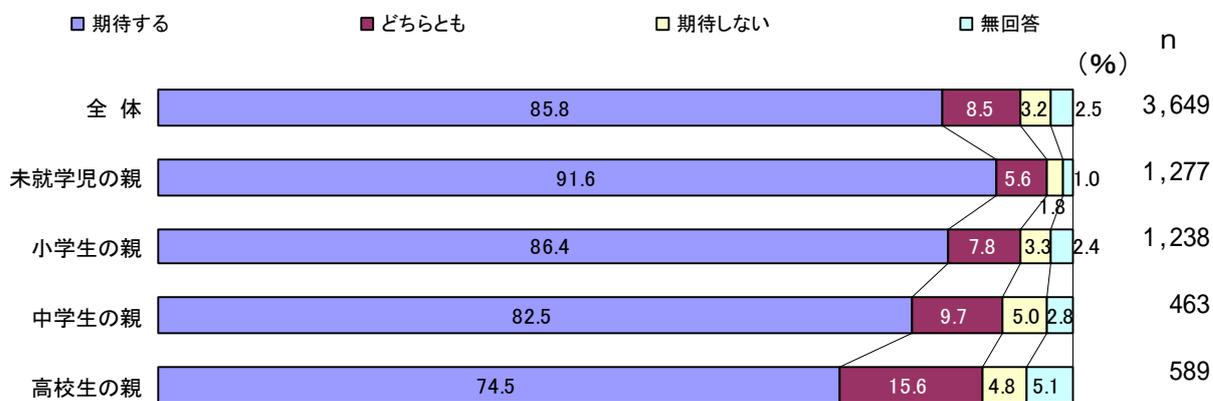
B) 現状の満足度



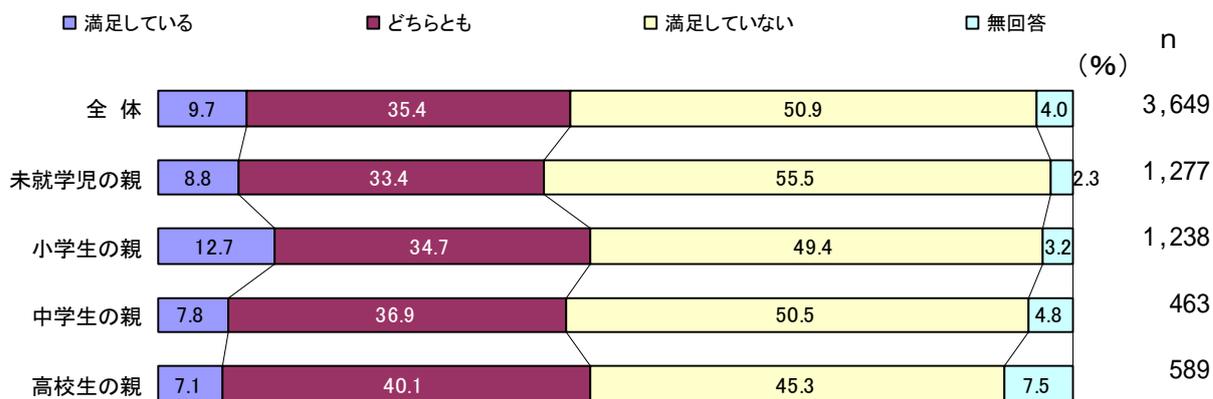
ク．児童手当制度の充実や税制度での優遇など、経済的な支援の充実

期待する割合は、全体で85.8%と全項目の中で最も高いが、その中でも、未就学児の親が91.6%と高い。現状への満足度（満足している）は、全体で9.7%であり、小学生の親の12.7%がその他の層と比べると高くなっている。

A) 期待するかどうか



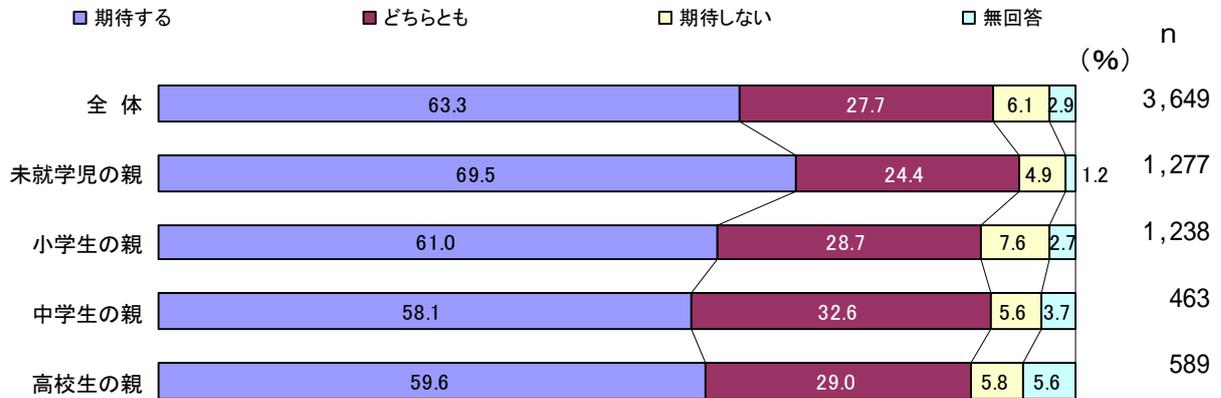
B) 現状の満足度



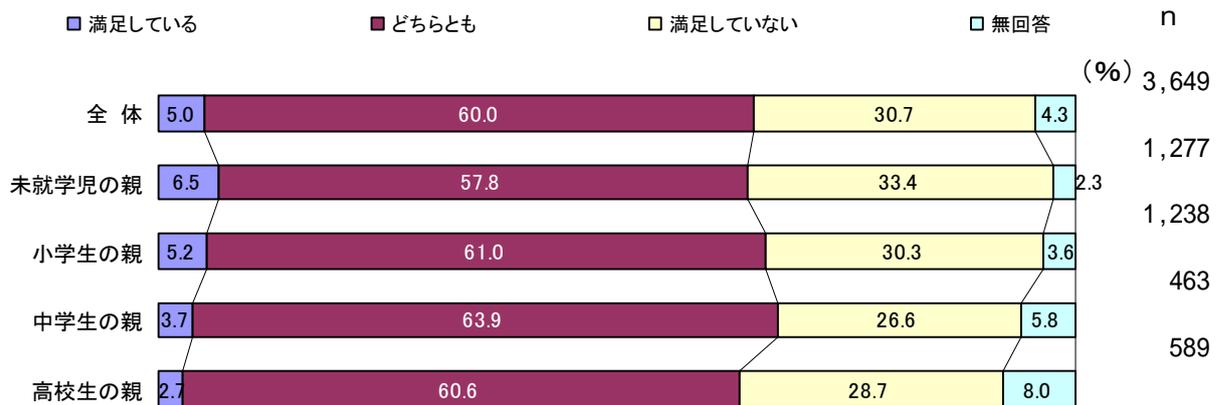
ケ．男女でともに子育てに参加することについての意識啓発

期待する割合は全体では 63.3%と全項目の中で 2 番目に低いですが、その中では、未就学児の親が 69.5%と高くなっている。現状への満足度（満足している）は、全体では 5.0%であるが、子どもの年齢別では、未就学児の親の 6.5%が最も多い。

A) 期待するかどうか



B) 現状の満足度



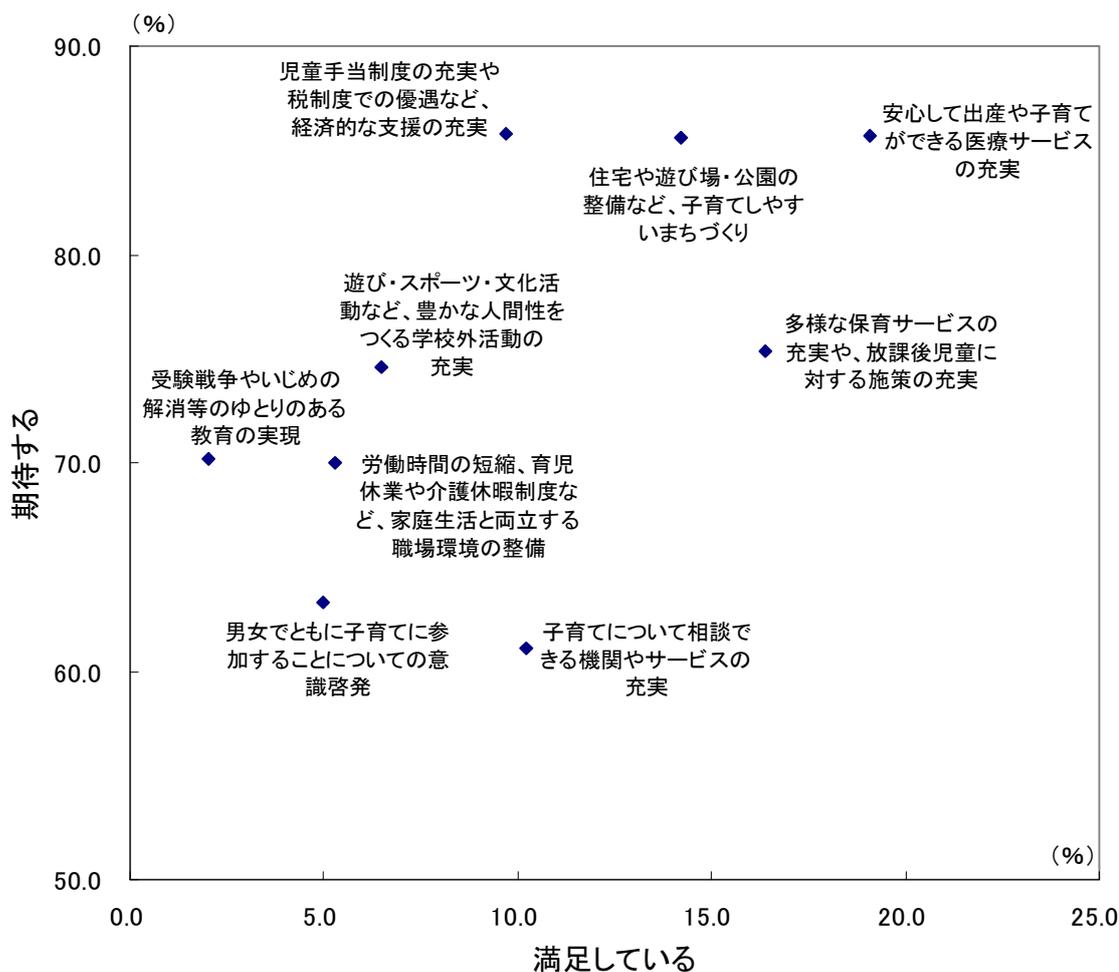
コ．名古屋市としては子育て支援に取り組む必要性がない

「名古屋市としては子育て支援に取り組む必要性がない」と回答している割合は 1%未満であり、ほとんどの人が、名古屋市が子育て支援に取り組むことに対して期待している。

「満足している」割合と「期待する」割合の関係

期待する割合が80%を超える「児童手当制度の充実や税制度での優遇など、経済的な支援の充実」、「安心して出産や子育てができる医療サービスの充実」、「住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり」への3項目について見ると、「医療サービスの充実」が19.1%と最も満足度が高く、「経済的支援の充実」が9.7%と最も満足度が低い。

施策項目	満足している	期待する
ア．労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など、家庭生活と両立する職場環境の整備	5.3	70.0
イ．多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実	16.4	75.4
ウ．安心して出産や子育てができる医療サービスの充実	19.1	85.7
エ．子育てについて相談できる機関やサービスの充実	10.2	61.1
オ．住宅や遊び場・公園の整備など、子育てしやすいまちづくり	14.2	85.6
カ．受験戦争やいじめの解消等のゆとりのある教育の実現	2.0	70.2
キ．遊び・スポーツ・文化活動など、豊かな人間性をつくる学校外活動の充実	6.5	74.6
ク．児童手当制度の充実や税制度での優遇など、経済的な支援の充実	9.7	85.8
ケ．男女でともに子育てに参加することについての意識啓発	5.0	63.3



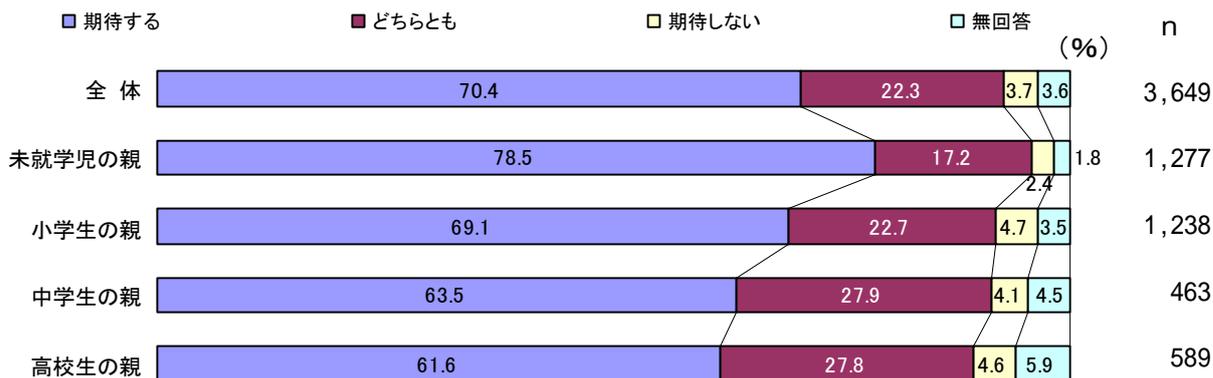
企業に期待する子育て支援への取り組みについて 【問 18】

企業の子育て支援に対して期待しますか。現在の取り組みについてどのように感じますか。

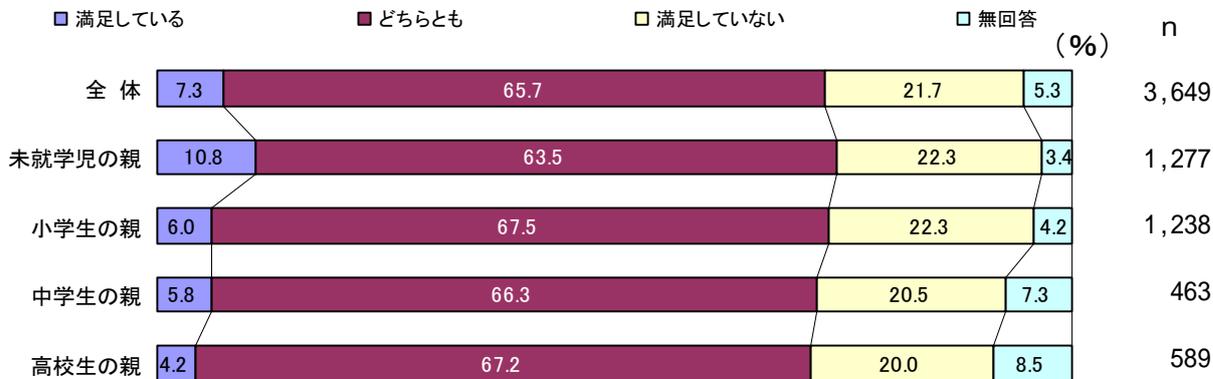
ア．子育てや子どもの視点に立った商品・サービスの提供に努める

現状への満足度（満足している）は最も高い未就学児の親の 10.8%であり、未就学児の親（78.5%）をはじめとして取組に「期待する」割合が高い。

A) 期待するかどうか



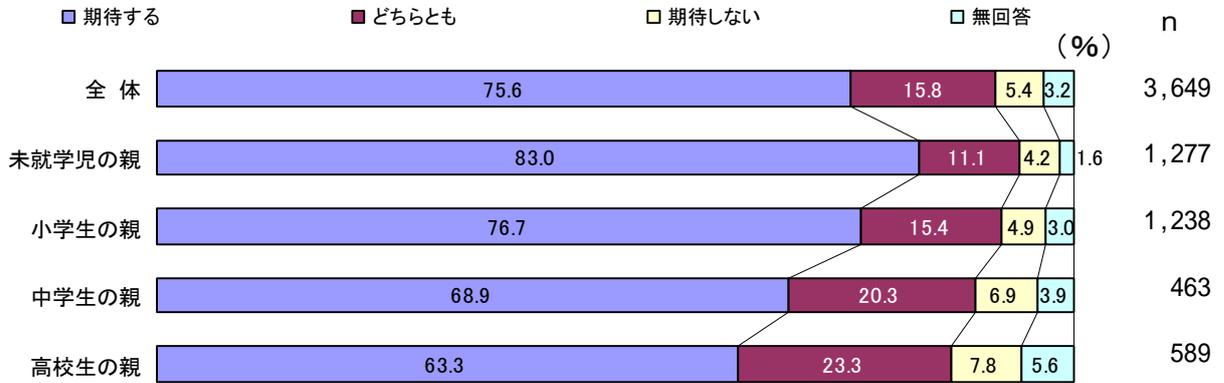
B) 現状の満足度



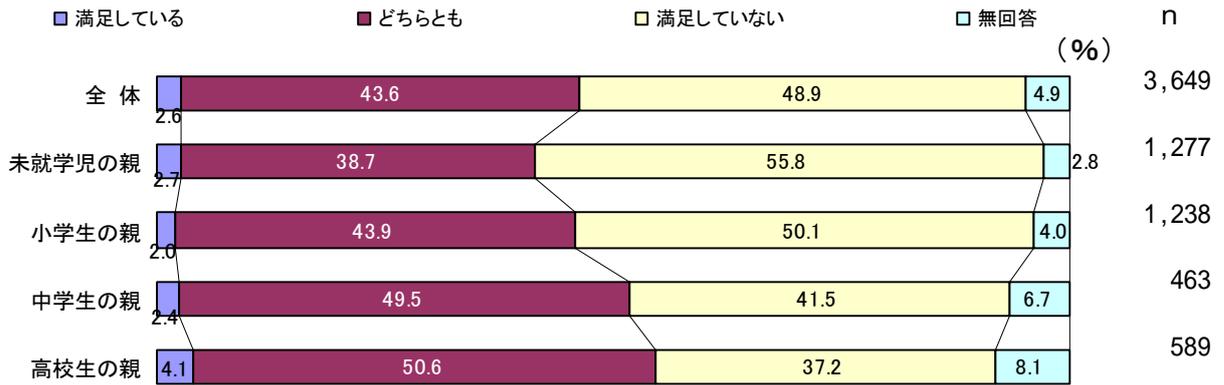
イ．子育て家庭への値引き・優遇サービスを実施する

現状への満足度(満足している)は最も高い高校生の親の4.1%であり、未就学児の親(83.0%)をはじめとして取組に「期待する」割合が高い。

A) 期待するかどうか



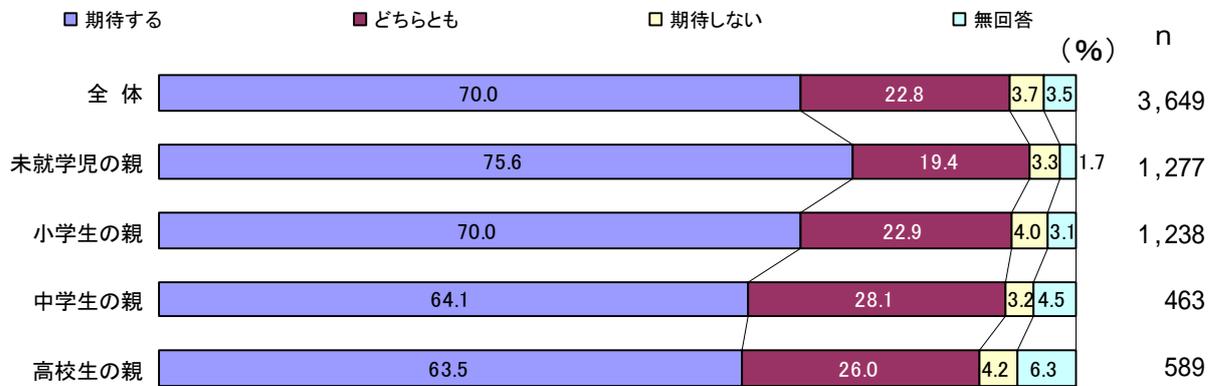
B) 現状の満足度



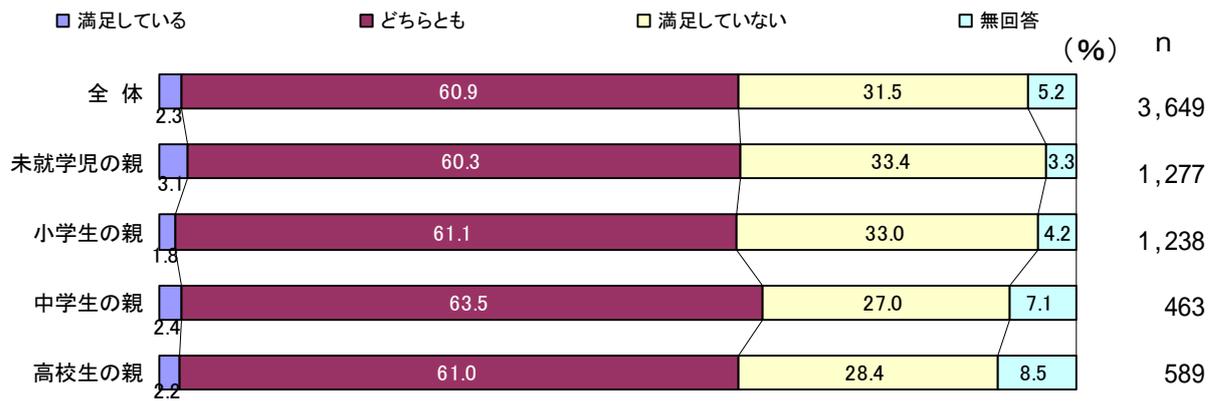
ウ．施設開放や寄付など、地域での子育て支援活動を援助する

現状への満足度（満足している）は最も高い未就学児の親の 3.1%であり、未就学児の親（75.6%）をはじめとして取組に「期待する」割合が高い。

A) 期待するかどうか



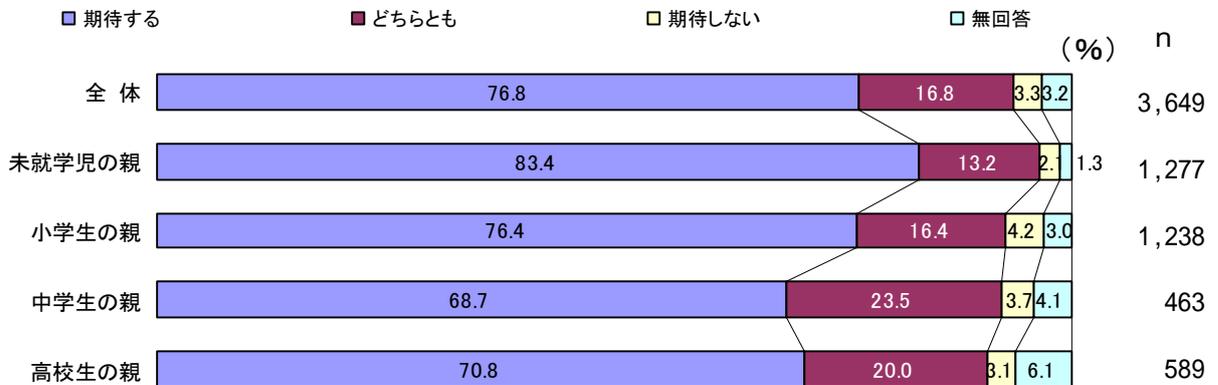
B) 現状の満足度



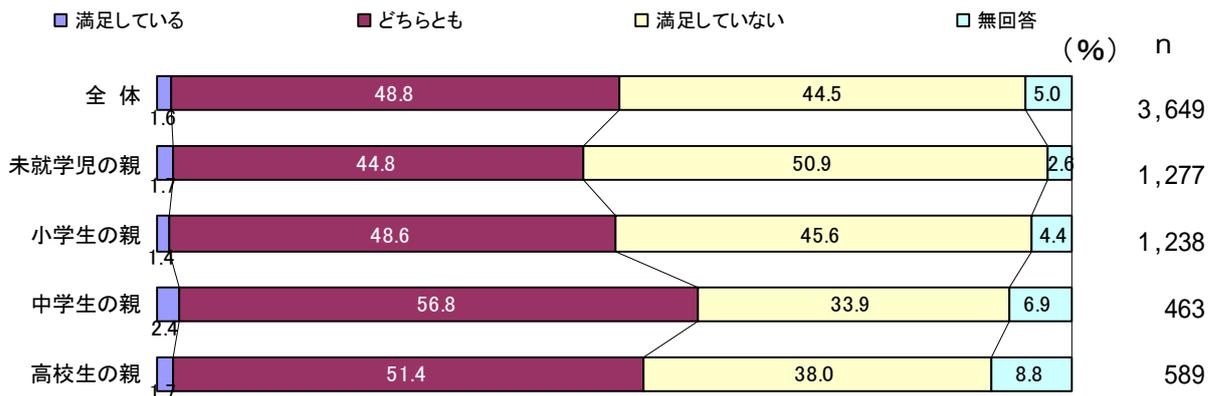
エ．子育てしやすい企業風土をつくる

現状への満足度（満足している）は最も高い中学生の親でも 2.4%であり、未就学児の親（83.4%）をはじめとして取組に「期待する」割合が高い。

A) 期待するかどうか



B) 現状の満足度



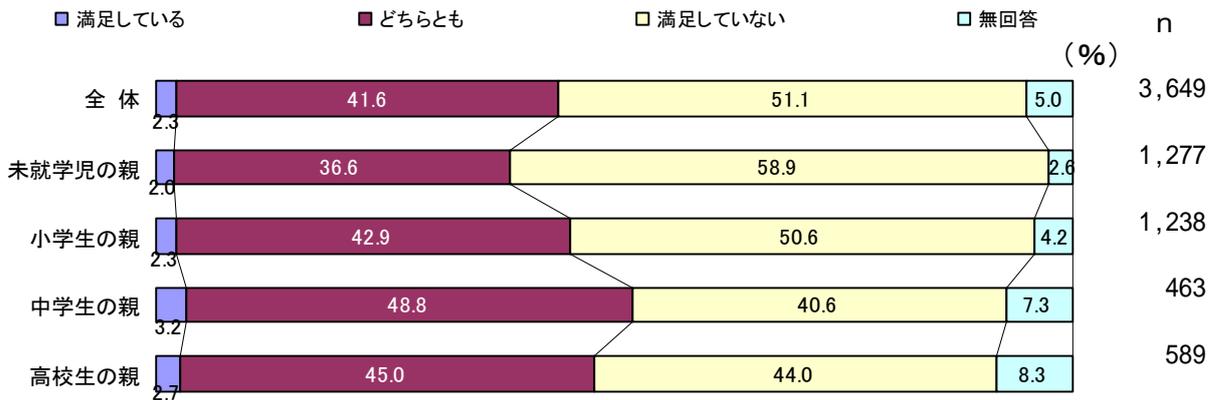
オ．子育てと仕事を両立しやすい雇用・労働時間などの制度を充実する

現状への満足度(満足している)は最も高い中学生の親の3.2%であり、未就学児の親(87.2%)をはじめとして取組に「期待する」割合が高い。

A) 期待するかどうか



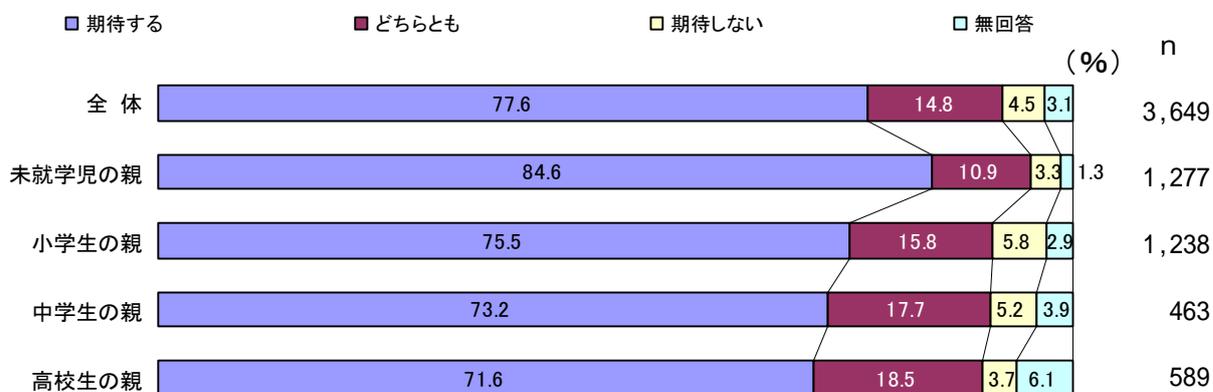
B) 現状の満足度



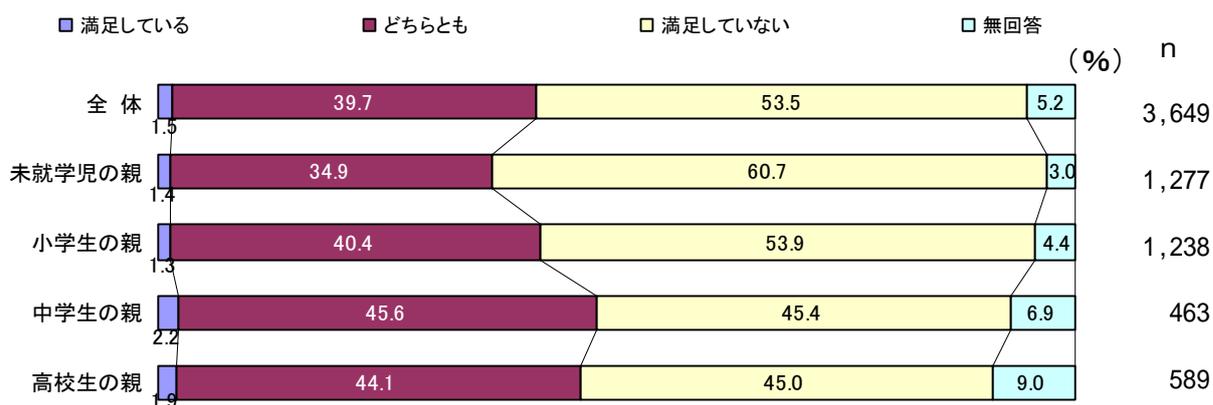
カ.子育て中の従業員を給与面で支援する(企業独自の育児休業手当の上乗せ支給や扶養手当の増額等)

現状への満足度(満足している)は最も高い中学生の親でも2.2%であり、未就学児の親(84.6%)をはじめとして取組に「期待する」割合が高い。

A) 期待するかどうか



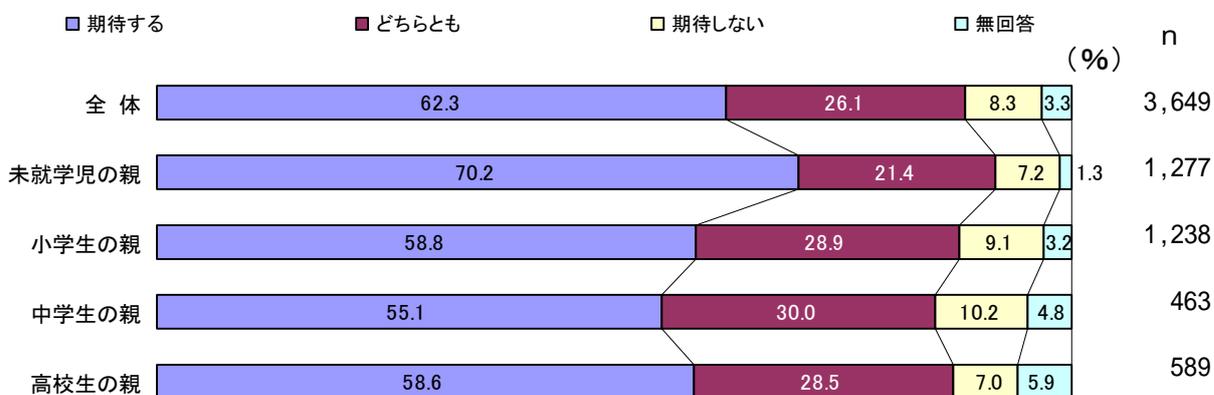
B) 現状の満足度



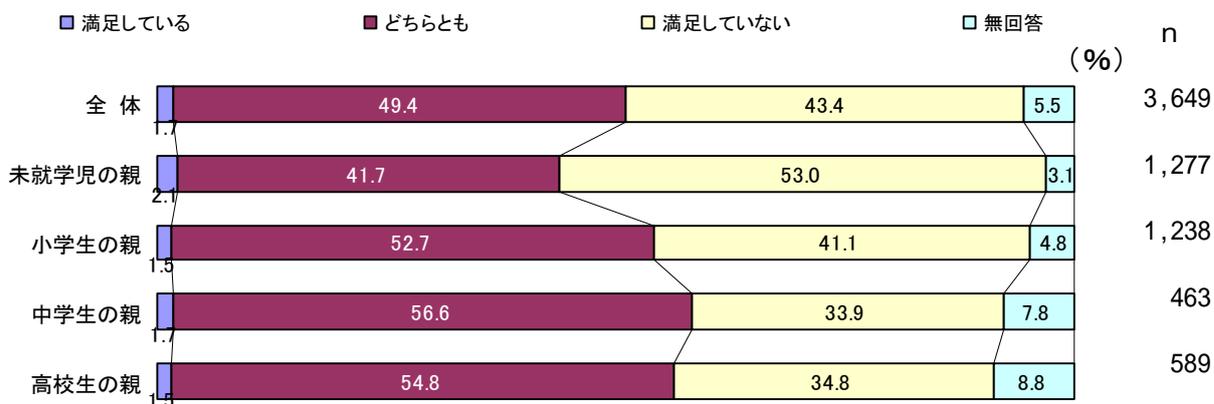
キ．企業内に託児施設をつくる

現状への満足度（満足している）は最も高い未就学児の親の 2.1%であり、未就学児の親（70.2%）をはじめとして取組に「期待する」割合が高い。

A) 期待するかどうか



B) 現状の満足度



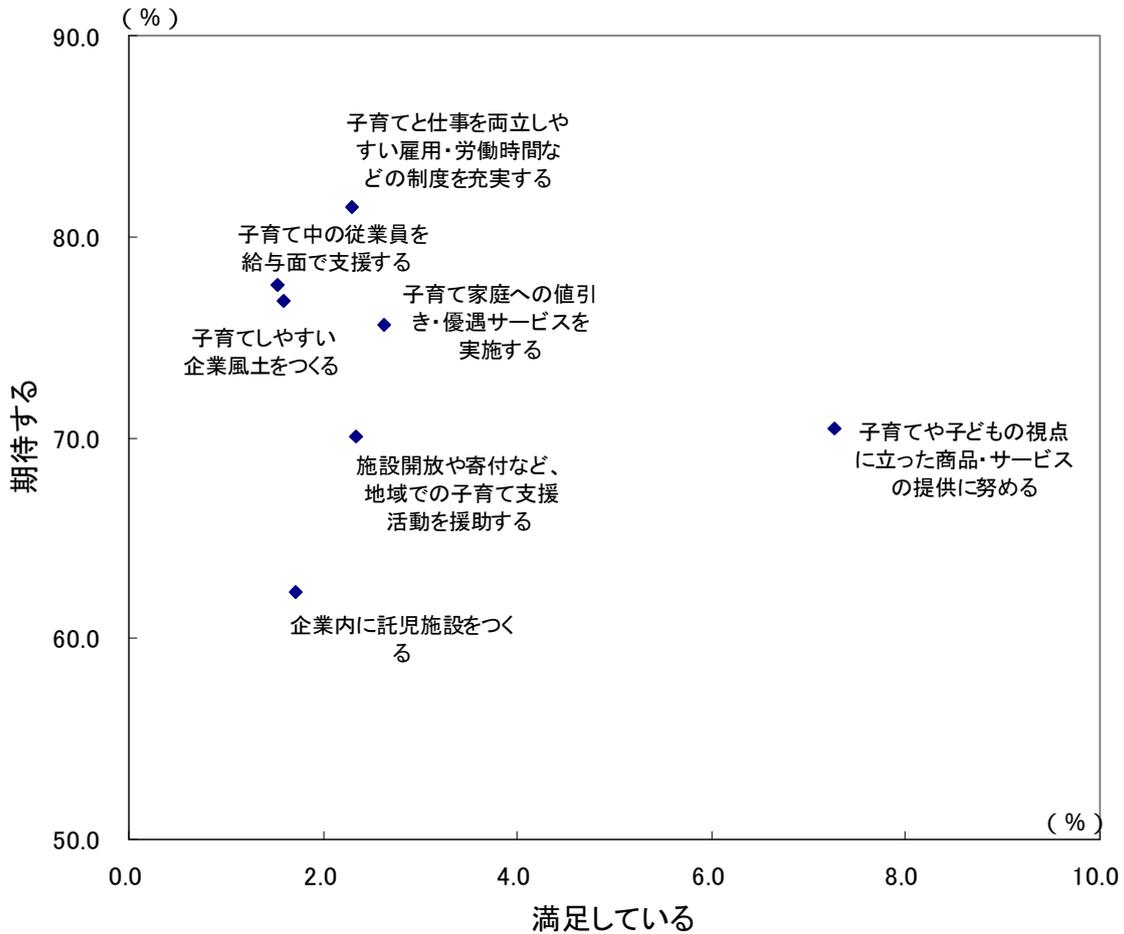
ク．企業としては子育て支援に取り組む必要性がない

「企業としては子育て支援に取り組む必要性がない」と回答している割合は全体で 1.3%であり、ほとんどの人が、企業が子育て支援に取り組むことに対して期待している。

「満足している」割合と「期待する」割合の関係

最も期待する割合が高い「子育てと仕事を両立しやすい雇用・労働時間などの制度を充実する」(81.5%)は満足度は2.3%で全項目の中で中位である、最も満足度が高い「子育てや子どもの視点に立った商品・サービスの提供に努める」は期待する割合は70.4%であり全項目中で中位である。

施策項目	満足している (%)	期待する (%)
ア．子育てや子どもの視点に立った商品・サービスの提供に努める	7.3	70.4
イ．子育て家庭への値引き・優遇サービスを実施する	2.6	75.6
ウ．施設開放や寄付など、地域での子育て支援活動を援助する	2.3	70.0
エ．子育てしやすい企業風土をつくる	1.6	76.8
オ．子育てと仕事を両立しやすい雇用・労働時間などの制度を充実する	2.3	81.5
カ．子育て中の従業員を給与面で支援する (企業独自の育児休業手当の上乗せ支給や扶養手当の増額など)	1.5	77.6
キ．企業内に託児施設をつくる	1.7	62.3



なごや子ども条例について 【問 19】

平成20年4月に「なごや子ども条例」が制定されたことを知っていますか。

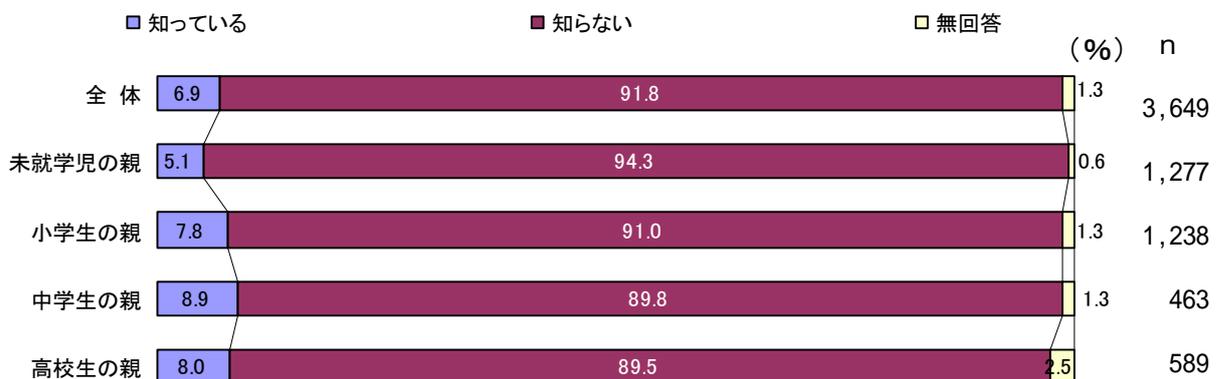
全体で見ると、なごや子ども条例について「内容についてもよく知っている」は1.0%と非常に低い。また、「制定されたことは知っているが、内容はあまり知らない」、「制定されたことは知っているが、内容はまったく知らない」も合わせた「制定されたことを知っている」割合は43.7%となっている。



なごや子ども・子育てわくわくプランについて 【問 20】

名古屋市の子育て支援策が「なごや 子ども・子育てわくわくプラン」(平成17年3月策定)に基づいて進められていることを知っていますか。

全体で見ると、わくわくプランの認知割合は6.9%にとどまり、最も高い中学生の親で8.9%となっている。



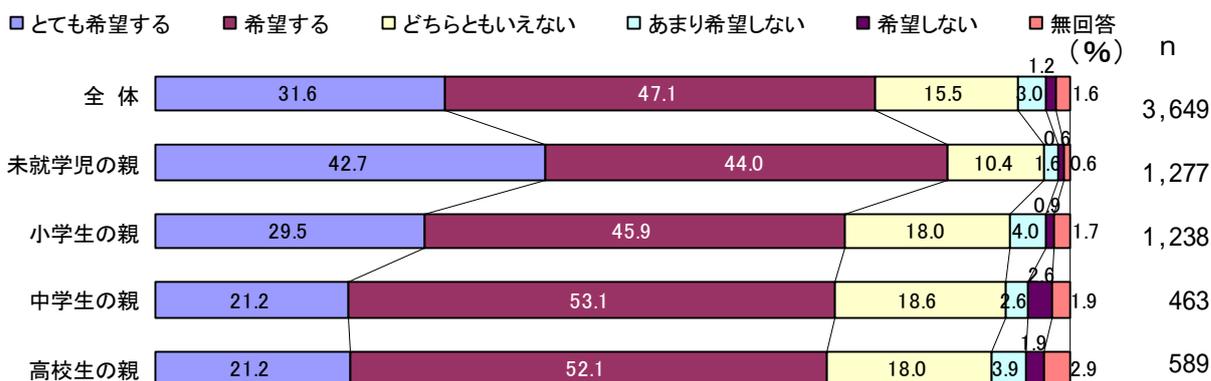
充実を希望する子育て支援策について 【問 21】

「なごや 子ども・子育てわくわくプラン」には名古屋市が重点的に進める子育て支援策5つのうち、あなたが充実を希望するのはどの支援策ですか。

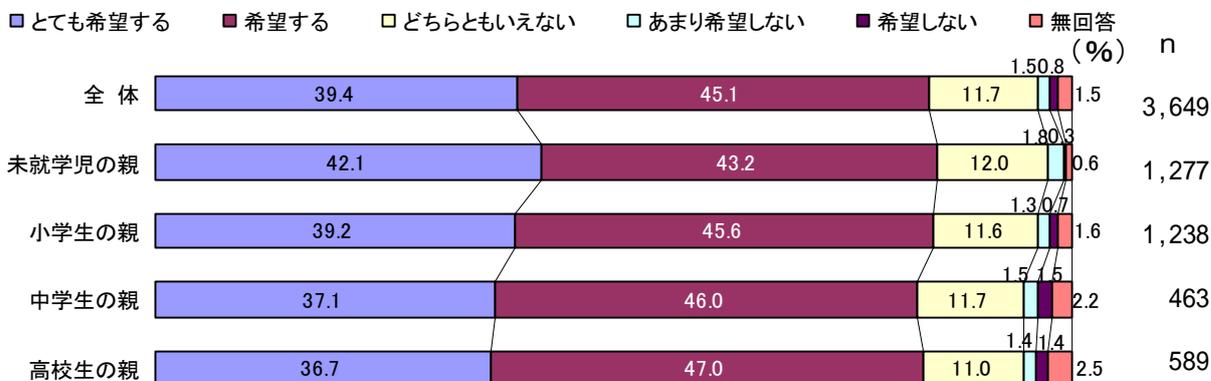
今後の子育て施策(ア～オ)に対して「とても希望する」「希望する」の割合をみると、どの施策に対しても、未就学児の親の関心が高く、特に「子育ての経済的な負担の軽減」や「子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり」に対する期待割合が高い。

未就学児の親の「子育ての経済的な負担の軽減」を「とても希望する」は80.5%、「希望する」は14.9%であり、合わせて94.5%に達している。

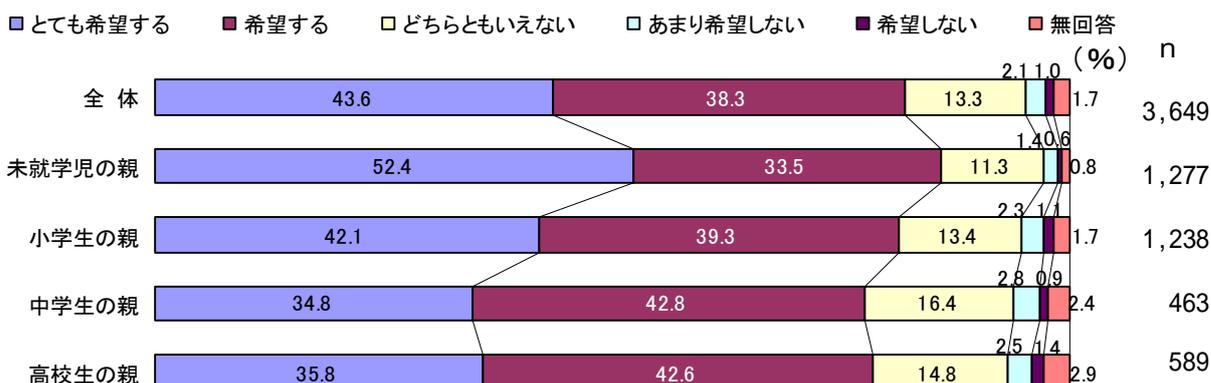
ア．地域での子育て支援とネットワークづくり



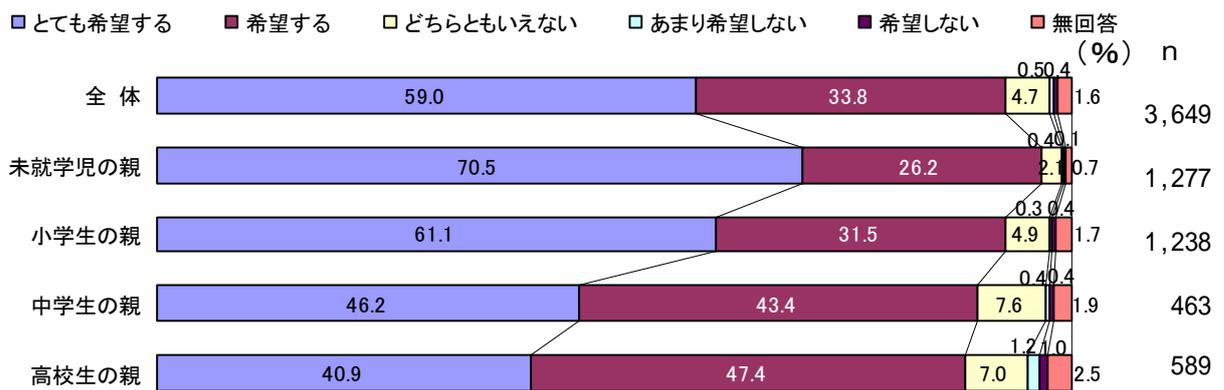
イ．次代の親となる子どもの健やかな育ちと若者の自立への支援



ウ．仕事と家庭の両立支援と男性を含む働き方の見直しの推進



エ．子どもと子育てで家庭にやさしいまちづくり



オ．子育ての経済的な負担の軽減

